

和歌山県高野町の盆棚

藤井 弘章

一 盆棚をめぐる先行研究

柳田国男は『先祖の話』のなかで、盆に祀られる精霊について、先祖・新仏・無縁仏の三種類に分類できるとし、それぞれの祀られる場所が屋内・縁側・屋外であると指摘している〔柳田 一九四六〕。この問題は、民俗学における重要な論点を含んでいるため、その後、さまざまな観点から研究が進められた。

盆棚や無縁仏の祭祀に限っていえば、最上孝敬・伊藤唯真・喜多村理子・高谷重夫などの研究がある〔最上 一九六〇・一九七五、伊藤 一九七八、喜多村 一九七七a・一九七七b・一九七七c・一九八五、高谷一九八五・一九九五など〕。また、徳島県など、特定の地域でも盆棚の事例収集が進められ、盆棚に関する研究が進展してきている〔庄武 二〇〇三・二〇一四など〕。これらの研究では、盆棚の形態や設置場所における地域的差異が注目され、盆の精霊祭祀が屋外から屋内へと変遷していったと指摘された。つまり、古くは先祖・新仏・無縁仏ともに屋外で祀られていたが、位牌や仏壇の成立と普及により、先祖を祀る場所が屋内へと移動し、無縁仏は屋外に残された、ということが読み取れるという。

さらに、近年では、関沢まゆみが、日本列島全域にわたって、盆棚や盆の祭祀場所に注目して盆行事を比較し、地域差から盆行事の変遷を読み解いている〔関沢 二〇一三〕。関沢の論点は、盆の祭祀は第1類型、第2類型、第3タイプの3つに分類されるというものである。第1類型は、屋内に盆棚を設けると

もに屋外の墓地に盆棚を設けるタイプ、第2類型は屋内の仏壇で先祖を祀るとともに屋外の庭先などに盆棚を設けるタイプ、第3類型は先祖・新仏・餓鬼仏（無縁仏）を明確に区別し、棚の下の一隅に餓鬼仏（無縁仏）のための供物を供えるタイプである。そして、第1類型は死者供養において具体的な遺骸と屋外の墓地を重視するタイプで、東北・九州に分布しており、最も古い習俗を示しているとする。それに対して第3類型は抽象的な霊魂と屋内の仏壇を重視するタイプで、列島中央部の近畿地方に分布し、最も新しく生まれた習俗であるという。第2類型は第1と第3の中間形態で、近畿地方をはさんで東西の中間地帯（東海・中国・四国など）にみられるとする。

このように、盆棚や盆における精霊祭祀場所に関する研究は進んできているものの、本稿で取り上げる和歌山県の盆棚についてはまとまった研究がみられない。先述した関沢の研究でも和歌山県の事例は取り上げられていない。和歌山県の盆行事が報告されたものとしては、『日本の民俗 三〇 和歌山』（野田 一九七四）、「和歌山県の葬送・墓制」（松本 一九七九）、『和歌山県の民俗分布図』（和歌山県教育委員会 一九七九）などがある。また、全国各地の盆棚を比較した高谷重夫も和歌山県の事例を紹介している〔高谷 一九九五〕。高谷の場合、和歌山県北東部にみられる、自家以外の死者を祀る新仏の棚にも注目している〔高谷 一九八八〕。森本一彦も高谷と同じく、自家以外の新仏を祀る習俗に注目している〔森本 二〇〇〇〕。そのほか、伊藤信明も和歌山県の盆棚に触れている〔伊藤 二〇一〇〕。その他、自治体史や各大学の民俗報

告書などにも触れられてはいる。このように、個別事例の報告は多数存在している。断片的な事例からでも、和歌山県における盆棚の事例の豊富さと多様な形態が垣間見える。しかしながら、県全体の盆棚の特徴や、先祖の棚・新仏の棚・無縁仏の棚にみられる三者の関係性、および、盆棚の地域的な分布などはよく分かっていないのが実情である。

一方、筆者はこれまで、熊野川町（現在の新宮市）・粉河町の一部（現在の紀の川市）・和歌山市の一部・日置川町（現在の白浜町）・かつらぎ町の一部・高野町において盆行事の調査をおこなってきた〔熊野川町教育委員会 二〇〇二、藤井 二〇〇一、日置川町史編さん委員会 二〇〇五、藤井 二〇〇九、高野町史編纂委員会 二〇一二など〕。これらは、自治体史などの民俗調査としておこなってきたものが多いため、個別の事例検討や、県内全域の特徴把握などはできていない。⁽¹⁾このような自治体史などの調査の一環として盆調査をおこなっていくなかで、とくに和歌山県北部において、無縁仏の盆棚の形態が地域ごとに差異があることに興味を覚え、意図的に事例を収集するようになった。⁽²⁾

本稿では、このような事例を整理して提示し、盆棚研究の一助とするため、高野町における盆棚を取り上げる。なお、高野町における盆調査は、高野町史民俗編の調査として平成二〇年（二〇〇八）～二二（二〇一〇）年にかけて集中的におこなったものである。⁽³⁾高野町は高野山地区以外、過疎化・高齢化が進行しており、調査時以降に定住者がいなくなった集落も存在する。このような現実をふまえ、本稿では調査記録を丁寧に表示しておくことも目的としている。

二 高野町の概要

高野町は、和歌山県の北東部、伊都郡の南東に位置し、南東部は奈良県、南部はかつらぎ町、北部は九度山町・橋本市と接している。町域のほぼ中央部には高野山がある。高野山は、平安時代初期に、空海によって開かれた真言宗の一大拠点であり、標高約八〇〇mの盆地の中に約一二〇の寺院がある。山上は東西約六km、周囲約一五kmの楕円形の平地になっており、寺院群を取り囲むように町場が形成されている。

この高野山の周辺の山間部には、一八の集落が点在している。東から、東富貴・西富貴・上筒香・中筒香・下筒香・杖ヶ藪・東又・榎原・平原・林・南・西ヶ峰・大滝・相ノ浦・湯川・花坂・細川・西郷という集落がある。このうち、杖ヶ藪・東又・榎原・平原・林・南・西ヶ峰は総称して摩尼と呼ばれ、摩尼のなかでも高野山に最も近い林・南・西ヶ峰の三集落は高根と呼ばれる。

高野町の人々は山上の高野山のことを山内、周辺に点在する一八集落のことを山外と呼んでいる。山外の集落は、限られた平地で稲作・畑作をおこないつながりが深く、信仰上のみならず、生業的にも高野山と密接に結び付くことで生活を維持してきた側面が強い。高野山は、僧侶が中心の集落であり、また、気候的にも寒冷であるため、食糧の生産には適していなかった。高野山で消費される食糧や日用品を供給する役割を果たしてきたのが高野山周辺の集落であった。宗教都市・高野山を支えてきたのが、山外の集落であったといえる。

一方、山外の集落にとつて、高野山は最も近い町場であった。生産した食糧や物資を販売する場であり、日用品などを購入する場でもあった。これらの集

落は、江戸時代までは高野寺領であった。富貴や筒香は、高野山からの距離が遠いため、明治二年（一八八九）の町村制施行後は、高野村（のち、高野町）とは別に富貴村が成立した。その後、昭和三年（一九五八）には、高野町と富貴村が合併して現在に至っている。

高野山には平安時代以来、多くの参詣者が集まった。現在、世界遺産に登録されている町石道は、九度山町の慈尊院から登り、花坂に入ってから高野山の大門口へと至るルートである。江戸時代に盛んに利用された、京都・大坂方面からの最短ルートである東高野街道は、橋本市学文路、九度山町河根を経由し、西郷の作水・尾細・神谷（これらの集落は尾根上に細長く立地している）を通り、不動坂口へと至る。和歌山・四国方面からの参詣者が利用したルートは、かつらぎ町志賀を通り、花坂の矢立で町石道と合流して大門口へと至る西高野街道であった。昭和五年（一九三〇）にケーブルカーが開業するまでは、全国各地から高野山を目指す参詣者は、こうしたルートを通る場合が多かった。

しかし、高野山には大門口・不動坂口のほかに、黒河口・龍神口・相ノ浦口・大滝口・大峰口という入り口があり、東や南から高野山へと至る道も存在した。奈良県の五條・西吉野方面からは、富貴・筒香・摩尼などを通り、奈良県野迫川村・十津川村や熊野方面からは大滝を通り、かつらぎ町花園（旧花園村）・有田方面からは相ノ浦や湯川を通るルートがあった。このようにみると、高野町の集落は、各方面から高野山へと入るときの経由地や入り口に位置しているといえることができる。したがって、民俗的な特徴としては、富貴は奈良県の五條・西吉野方面、摩尼は奈良県方面、大滝は奈良県の野迫川方面、相ノ浦・湯川は花園・有田方面、花坂は和歌山方面、西郷は橋本・九度山方面の影響がみられる。

高野町の各集落には寺もしくは堂がある。すべて真言宗である。⁽⁴⁾ 山間部の集落であるため、堂は無住の場合が多い。こうした場合、高野山の塔頭が檀那寺となっている。したがって、盆の際に檀家回りや、経木を配るのは高野山の檀那寺からおこなう場合が多い。ただし、東富貴・西富貴の寺院にはそれぞれ住職がいるため、地元の寺から檀家回りや経木配布がおこなわれている。また、高野町では人が亡くなると、高野山に納骨する習俗がある。高野町ではコッノボリという人が多い（藤井 二〇一七）。このように、高野町では葬送儀礼や盆行事も高野山と密接に結びついている。墓制については、『高野町史 民俗編』において、森本一彦がまとめている（『高野町史編纂委員会 二〇一二』）。町内には、土葬の埋葬地の近辺に墓碑を建立する単墓制と、埋葬地と別の場所に墓碑を建立する両墓制がみられる（写真1・2）。また、家ごとに墓地が分散しているところもあるが、集落によっては共同墓地があるところもみられる。

三 高野町の盆行事

1 先行研究と『高野町史』

高野町の盆行事については、日野西眞定などが高野山の寺院における年中行事を紹介しているものの（矢野・日野西 一九九五など）、高野山周辺の集落における盆行事については、富貴と筒香、および大滝のわずかな報告がみられる程度である（垣内 一九六七、高野町立筒香小学校 一九九二、中谷 二〇一〇）。なお、日野西は、『高野町史 民俗編』第二部「高野山の信仰」において、盆行事や盆棚について触れているが、高野山の寺院もしくは、他町村の事例が引用されている。

筆者は、『高野町史 民俗編』第一部「高野町の民俗」編纂の調査としてお

こなつたため、調査時に在住者がほとんどいなかった平原以外は、高野町内のすべての集落において盆行事の聞き取り調査、および見学をおこなった。ただし、山外の集落をおもな調査対象としたため、高野山については積極的に調査をおこなわなかった。高野山については、山外の集落出身者および、新仏の棚のみ調査した。こうした成果は、『高野町史 民俗編』第一部「高野町の民俗」第五章「くりかえされる民俗」第一節「年中行事」において、筆者が担当して高野町における盆行事を紹介した〔高野町史編纂委員会 二〇一二〕。ただし、町史では盆行事の概要を記述するにとどまっている。以下では家での先祖・新仏・無縁仏祭祀にかかわる部分を中心に高野町における概要をまとめておく。

2 盆の準備

高野町では昭和三〇年代までは正月と同様に盆も旧暦でおこなっていた。筆者が聞き取りした内容はほぼ新暦に変更されたあとの行事であるため、以下では新暦の日程で記しておく。

富貴では八月一日に市が立った。筒香からは大きな竹籠を持って富貴の市へ買い物に出かけた。

家々における盆の準備は、八月七日ごろから取り掛かった。七日を「仏祭りの始まりの日」という言い方もした（花坂）。七日に墓掃除や道普請をする地区も多い。南では、この日にタナバタサンを祀る家もあった。

富貴・筒香では高灯籠を立てる風習がみられた。富貴では東富貴に一八か所、西富貴に一二か所の墓が点在していたため、富貴全体の墓地を七か所にまとめ、そこに高灯籠を立てた。もとは七〜八mの本柱を立て、先にヒノキやスギの葉を束ねて灯籠を設け、夜になると点火して祖霊迎えの目印にしたという。大樹があるところは、その木の枝に灯籠を吊るした。以前は、八月七日か

ら一四日まで毎晩、若衆組がこの七か所で灯明をあげ、供物・供花し、鉦をならしつつ念仏を唱えた。これを七墓参りという〔垣内 一九六七〕。ところが、筆者の調査段階では、七墓参りのことは聞き取りできたものの、七か所の墓地で高灯籠を設けたことは聞くことができなかった。筆者の調査では、昭和中期には東富貴の宝蔵院、西富貴の阿弥陀院で高灯籠を立て、七日から一五日まで灯籠に電氣をつけたことを確認したが、調査時にはすでにおこなわれていなかった。

一方、筒香では、筆者調査時にも高灯籠は立てられていた。上筒香は西方寺、中筒香は延命寺、下筒香は栄山寺に立てる（写真3〜5）。上筒香・中筒香・下筒香ともに、八月七日に墓掃除をして、それぞれの寺院に高灯籠を立てる。中筒香の延命寺では高いスギの木を立て、上部に木を横に取り付けて十字にし、それぞれの先にはスギの葉をつけ、明かりをつける箱を吊るす。この灯籠は高野山に向けて立て、九月一日の八朔まで立てておく。下筒香の栄山寺の灯籠は簡略化して小さいサイズとなっている。

3 仏迎え

高野町において、最も広く「仏を迎える」行為とされているのは、檀那寺から経木きようぎをもらい受けることである。経木とは、木を薄く削ったものに、先祖などの戒名を記した塔婆の一種である。おおよそ縦三〇cm、横五cm、厚さ一mmほどの大きさをしている。高野町では、家ごとに先祖代々・弘法大師・三界万霊（無縁仏）を記した経木を一枚ずつもらう場合が多いが、檀那寺によって多少の差異がみられる。たとえば、西細川では四社明神（丹生明神・高野山の地主神）の経木もある。一年以内に亡くなった死者を祀る新仏の場合は、さらにもう一枚経木をもらう。五十回忌をすぎない死者についても、個別に経木

をもらう。五十回忌を過ぎると先祖として祀る。

経木をもらう場所と日程は集落によってさまざまである。東富貴・西富貴では、一二日に寺（東富貴は宝蔵院、西富貴は阿弥陀院）から経木をもらうことで仏迎えとする。上筒香・中筒香・下筒香では七日に寺（上筒香は西方寺、中筒香は延命寺、下筒香は栄山寺）から経木をもらって仏迎えとする。花坂では、一二日に高野山の無量光院の僧侶が花坂の観音堂に来て経木を書く。花坂の人々は、一二日に観音堂まで経木をもらいに行くことで仏迎えをする。相ノ浦では区長が事前に高野山の高室院から経木をもらってきており、一二日に区長の家に経木をもらいに行くことで仏迎えするという。

墓参りをする事で「仏を迎える」という集落もある。杖ヶ藪・東又・檜原・平原・林・南・大滝では、一二日か一四日に墓参りをして仏を迎えるという（写真6）。これらの集落では、経木は区長が事前に寺院からもらってきているため、墓参りをする事で仏を迎えると考えようである。相ノ浦では経木をもらって仏を迎えるというが、一二日に墓参りをして迎える人もいる。墓へ迎えに行った際、杖ヶ藪・東又・檜原・平原・林・南では、墓前や墓地の入口にある六地藏の前に柿の葉やサトイモの葉を敷き、その上にナスなどの生野菜を刻んだものを置く（写真7・8）。

高野山まで仏を迎えに行くという集落もある。高野山周辺地域では、高野山の奥之院または檀那寺に納骨する風習がある。このため、盆には高野山から先祖や新仏が戻ってくるという感覚があるようである。西ヶ峰の場合は、八月一日に高野山の遍照光院へ経木をもらいに行くことで仏を迎えた。細川・西郷では、八月一日に「十日登り」と称して奥之院まで参った。これを仏迎えと言っている。ただし、細川・西郷では、経木は別の機会にもらっている。

仏を迎えるときに迎え火を焚く場合もある（写真9）。富貴では、以下のよ

うな報告がある。一二日の晩に祖霊を迎えるために迎え火を焚く。若竹に盆花を飾り、七節の「精霊棚（シヨロダナ）」の先に肥え松を束ねて点火して祖霊を迎える。最近では肥え松をろうそくで代用している（垣内 一九六七）。筆者の調査時にも、以下のような内容を聞いた。庭先に竹を立て、松の根を細かくしたものを立てた竹の枝に置き、花が咲いたように火を焚く。立てた竹は八朔までおいておく。ただし、筆者の調査時には実際に焚いている家は少なくなっており（写真24）、また迎え火を焚く場所のことをシヨロダナと呼ぶことは確認できなかった。

以上のように、高野町では、「仏迎え」の準備として、買い物をし、墓掃除をし、場所によつては高灯籠を立てる、という行為がおこなわれていた。そして、「仏迎え」の行為としては、①檀那寺から経木をもらう、②墓参りをする、③高野山まで行く、という三種類がみられた。ただし、これらの三点は、明確に区別されているものではなく、複合的におこなわれている。どの行為が仏迎えと考えるのかは、集落によつて、あるいは家によつて異なっている。

4 家での祭祀

八月一三日までに迎えられた仏は、家に着くと、仏壇以外の祭壇で祀られる。先祖の祭壇については四章で取り上げる。

盆には各家を檀那寺の僧侶が回り、各家の先祖や新仏を拝む。これをタナギョウ（棚経）という（写真107・113・114・118）。高野町では、一二日に祭壇の準備をして、一四日に祀る場合が多いため、タナギョウは一四日におこなっている場合が多い。ただし、富貴・花坂のような戸数の多い集落では、一二日からタナギョウがおこなわれている。

先祖の祭壇には、仏を迎えてから送るまで、さまざまな供え物がされる。迎

えた直後にはオチツキダンゴ・オチツキソウメンなどを供える場合が多い。町内における盆祭祀の中心日である一四日には、朝・昼・間食・夜の四回、調理をした食事を供える家が多い。家族の食事と同じようなものを供えてきた（写真¹⁵¹など）。自分たちが食べる最高のものを仏に供えたという。膳の数は奇数にするという家もあるが、偶数の家もある。膳に供える献立は、各家によって異なっているが、ご飯・汁物・煮物・酢の物・漬物・豆など三品か五品を供えることが多いようである。朝にはそうめん、間食か夜にはおはぎを供えることも多い。送るときには茶粥やソラマメを供える傾向がみられる。特別な言い方をするものとしては、富貴での大根葉の漬物がある。この大根は七月二十四日に蒔いておいたもので、この日に大根を蒔くことを「二四日蒔き」と呼んでいる。ちょうど盆に食べられるほどに成長し、間引いて漬物にした大根葉を八月一四日に供える。西郷のトリノコモチも特徴的である。ウマオイの形にしてホトケノウマと呼んでいる家もある。

膳の前には、新竹・ミソハギ・ススキなどで作った箸を用意する（写真¹⁵²など）。食事ごとに取り替えるために多くの箸を用意している家が多い。相ノ浦・上湯川では、箸を十字にして、供え物に立てる場合もある（写真^{108・119・125・133・135}）。

調理をした食事以外に、生の野菜や果物も供える（写真^{64・68}など）。野菜・果物は、サトイモ・桐・バショウなど、大きな葉の上に置く場合が多い。盆には新しいものを供えるといい、自分の家で作った野菜や果物を供えるという。柿・栗・なつめなどを供えることも多い。柿や栗はまだ熟していない状態のものである（写真⁶⁸など）。

5 盆花

盆に仏に供える花は盆花と呼ばれている（写真¹⁵⁰など）。富貴ではオミナエシとミズハギを盆花としていたという〔垣内 一九六七〕。筆者の調査では、おおよそコウヤマキ・シキミ（シキビと呼ばれる）・オミナエシ・ミソハギ・カルカヤ・ユリ・菊・ホウズキ・蓮などを供えるという語りを聞き、実際に盆棚に供えられている様子も確認した。ただし、もともとはシキミと野山に咲く色花が中心で、コウヤマキを供えるようになったのは最近であるという。最近では、野山や田の畦畔に盆花を採りに行くことがなくなり、花屋でキクなどの色花を買う家も増えてきた。花を供える花筒は、新竹で用意する。下のほうを足のように割り、倒れないようにしたもので、これをモンドリと呼んでいる（写真¹⁵⁰など）。なお、ろうそく・線香を立てる台も花筒と同じように竹で作る家もある（写真^{140・144}など）。花筒のように竹の下部分を足のようにして台にしたものである。

6 茶湯

高野町では、盆の供え物として、お茶も欠かせないものとなっている。仏に供えるお茶は盆のうちに何度も取り替える（写真^{153・164}など）。これをオチャト（お茶湯）と呼んでいる。表1の43の家（上湯川）では、「雨垂れ流れるほどオチャトせー」といった。表1の57の家（西細川）では、オチャトを七五回するといった、豆を用いて回数を数えた。

7 仏の橋

縁側の外にススキや茅を束ねたものを置くという習俗もみられる（写真^{66・70・76・109・112・115・118・121・122・126・129}）。この習俗は東又・檜原（小安）・

林・南・大滝・相ノ浦に分布している。これは高野山の東から南にかけての地域に当たる。雨垂れにススキや茅を束ねたものを置き、そこにお茶をかけるというものである。大滝・相ノ浦では、雨垂れに置いたススキを「仏さんの出入りする橋」などといい、これをつたって仏が家の中に入るといふ。ただし、東又では橋という伝承はなく、オチャトのお茶をこの上に捨てるというだけであつた。

8 新仏の祭祀

去年の盆から当年の盆までに亡くなった死者の霊は、新仏として祀られる。新仏の場合、先祖よりも早く、一二日ごろから祀る場合が多い。早く祀るのは新仏の場合は迷うからであるという（林）。林では、新仏の場合は、道に迷わないように、軒へ提灯を吊る。

新仏の場合、先祖とは別に祭壇や棚を作つて祀られる。こうした新仏の祭壇・棚の形態については四章で詳述する。新仏の棚には、檀那寺の僧侶が参るだけでなく、親戚や集落の人などが参つた。個人で参る場合もあつたが、集落の人が集まつて拌みに行くこともあつた（富貴・上筒香・中筒香・下筒香・東又・杖ヶ藪・南・林・下湯川・西郷（神谷））。中筒香では、一四日の夜に集落の人々が新仏の家を拌んで回り、最後に延命寺で拌む（写真10）。杖ヶ藪は一四日の昼に寺で集まつて拌む。このあと、新仏の家に参つた。このとき、富貴・上筒香・中筒香・南・林・下湯川・西郷（神谷）では、「南無阿弥陀仏」の念仏を唱えた。この念仏も、町内における民俗の特徴といえる。

9 仏送り

先祖などの霊を家でもてなしたあと、送り返す行事がおこなわれる（写真11

、14）。町内では、仏の送りは、一四日の夕方か、一五日の早朝である。まだ夜が明けない五時ごろに送つてしまふところもある。その理由としては、一番船で送る（西郷（尾細））、カラスが鳴かないうちに送る（下筒香）、仏さんが遅れてしまう（上筒香）、仏さんは朝日がつらい（富貴）、などと語られる。送る場所は川・墓・寺・地蔵などである。経木・花・供え物を持つて行つて送るが、経木だけは別に扱うこともある。たとえば、林では、花・供え物などは川へ流し、経木だけを奥之院へ持つて行つたという。送つたあとは、後ろを振り向かないで家へ帰る（西郷（尾細））などというところもある。最近では、川へ送ると川が汚れるというようになり、かつては流していたところでも、谷や山、墓へ納める場合が増えてきている。

仏を送つたあとに送り火を焚く場合もみられる。すでに送っているのに送り火を焚くのは不思議である、と疑問を感じながら語る話者もいた。なかには、仏さんが残っていたらいけないので、送り火を焚いて出て行つてもらふため（南）、と語る方もいた。また、足の遅い仏さんを迎えるために、一五日に迎え火、一六日に送り火を焚くと語る方もいた（西富貴）。

盆が終わったところに、高野山へ参る地区もあつた。上筒香や下筒香では一八日、中筒香では二〇日にソウノボリ（総登り）といつて、集落を挙げて高野山へ参つた。

四 高野町の盆棚

高野町における盆棚を一覧表にしたものが表1である。ここでは、先祖・新仏・無縁仏のように明確に祭祀の対象が語られなくても、屋外に何かを設置している場合は表に加えた。屋外の臨時設置物は、話者の語りでは確認できなくても、精霊祭祀の痕跡の可能性もあるからである。たとえば、次年度以降にま

とめる予定の橋本市において、松明を焚く場所をカドボトケと呼んでいる事例も存在する。ただし、迎え火・送り火の場合は、松明を焚くだけでなく、竹などを立てる場合のみ記載した。また、仏の通路として庭に置くという力やなどについても記載した。

祭祀場所については、現在の場所だけでなく、聞き取りから以前の場所を確認した場合、変遷が分かるように記載した。棚の形態と祀り方については、基本的には筆者が現地で見確認したままを記載した。ただし、話者の説明とずれがある部分もみられる。したがって、調査時の祀り方を示したうえで、話者の語りも記載した。そのほか、その家の話者が語った盆の概要についてもまとめた。なお、撮影した写真もできる限り掲載した。ただし、高野町における盆祭祀は一四日を中心におこなわれるため、すべての写真がその家における本来の盆祭祀を示しているのではない、ということをお断しておく。つまり、一三日に調査した家では、まだ供え物をしていないところもあり、一四日の夕方に調査した家ですぐに供え物を片付けたあとの家もあった。

1 先祖の棚

高野町では、先祖の霊はホトケサン（仏さん）と呼ぶ場合が一般的である。ホトケサンは家の中の仏壇で祭祀され、盆や彼岸などには墓でも祭祀する。盆には仏壇の前や床の間に、臨時に祭壇を設けて祀る場合が多い。机を出して白い布を掛けるなどして、祭壇にする場合が多いようであるが、もろぶたを置く場合もある。もろぶたを置くのは、檜原・杖ヶ藪・東又・南・湯川・花坂である（写真60・64・68・73・136・138・140・150）。仏壇にも供え物をするなど、祭壇と連続性をもたせる家もあるが、仏壇の前や隣であっても、仏壇とは切り離して祭壇を設ける場合も多い。

先祖の位牌は仏壇に置いたままで、仏壇の前に設置された祭壇に「先祖代々」の経木を置いて祀る場合がある。また、先祖の位牌を仏壇から出して、経木とともに祭壇に並べている家もある。先祖の祭壇に祀る経木は「先祖代々」が基本で、五十回忌までの仏のものを祀る家も多い。五十回忌までの仏の経木については、家によって枚数が異なる。「南大師遍照金剛」（弘法大師）の経木を置く家もある。「三界万霊」の経木を先祖の祭壇に置く家もある。経木は専用の台がある家もあるが、盆などに載せて立て掛ける家も多い。湯川・花坂・細川・西郷では、経木を花筒にくくりつけたり、もたれさせて立てることも多い（写真133・135・146・156・157・158・160・163・170・172・174・176）。上筒香・大滝・相ノ浦・花坂では水を入れた器に載せている家もある（写真42・110・119・128・131・140・144）。

祭壇の背後や周囲には、弘法大師・不動明王・十三仏の掛け軸や、四国十八か所・西国三十三か所の掛け軸を掛ける家が多い。これは町内全域にみられる。

2 新仏の棚

新仏は前年の盆以降に亡くなった死者霊である。高野町では、新仏の名称は確認できなかった。先祖の祭壇のほかに、軒下や縁側などに棚を作って新仏を祀る習俗がある。ただし、近年では、屋内に祭壇を設ける家も増えてきている。この場合は、葬儀屋などから購入した祭壇を設置することが多い。いずれにしても、高野町においては、新仏の棚についての報告はほとんどない。筆者の調査では以下のようなことが分かった。

昭和後期ごろまでは、新仏は屋形をこしらえて祀る場合が多かった。その場合、祭祀場所は、軒下・縁側が多かった。富貴では、縁の隅へもろぶたを伏せ

て白い布を敷いて段を作り、屋根はヒノキの葉で覆って祀った。新仏は恥ずかしいので、少し隠れたところへ祀ってほしいともいう（西富貴）。縁側に祀るのは、外から参ってくれやすいようにという意図もあるという。東又では、新竹を四本柱にしたものを軒先へ設置した。屋根はカヤやヒノキの葉で葺き、階段をつける。中には経木、供え物を置く。檜原（小安）では、カヤかヒノキで小屋を作った。「ヤカタ作る」といい、親戚一統が集まって、故人をしのびながら作った、という。南の大谷富雄氏（表1の27）は、大工をしていたため、よく屋根を作ったという。このように、集落に大工など、器用な人がいる場合は、その人を中心に棚が作られることもあった。

現在では、葬儀屋が持つてくる既製品の棚を屋内に設置して祀る場合が増えている。この棚を作ることはかなり大変だ、と語られる。過疎化・高齢化が進んだ山外の集落では棚を作ることが困難になってきているという現実がある。一方で、現在でも高野山では新仏の棚を作る場合が多い。高野山では寺院関係の仕事があるため大工が多かった。南などは大工が多く輩出する集落であった。現在でも大工が近くに存在するために、高野山においては新仏の棚を作ることが続いていると思われる。

写真79～106は平成二二年（二〇一〇）八月一〇日、高野山において新仏の棚を作成した際に撮影したものである。このときは、西郷（神谷）の崎山忠二氏（表1の59）が製作にかかわっていた。

このほか、中筒香・下筒香では、自分の家以外の、村で亡くなった新仏を縁側で祀る習俗がある。中筒香では、かつては親戚だけを祀ったというが、現在では村中の新仏を祀っている。杖ヶ敷・東又などの無縁仏と似たような形態であるが、中筒香・下筒香では無縁仏とは別に、村の新仏を祀っている（写真50・53）。

3 無縁仏の棚

これまで、高野町内の無縁仏の棚が報告されているのは筒香のみであった〔高野町立筒香小学校 一九九二〕。上筒香では「先祖代々は奥の間、新仏は別の所へ、三界万霊は縁側に果物、野菜、珍しいものをお供えする。」とある。中筒香では「先祖代々は奥の間、三界万霊は入り口に御祭りし、新客（年内に亡くなった方）は、また別の所に祭る。果物、甘いもの、あらゆる御馳走を早朝より用意し夜遅くまで、懇ろに御祭りします。特に畑でできた農作物は必ずお供えます。花飾りは新竹に立てます。三界万霊（餓鬼さん）といって、お供えした物を食べたたら太るという話が残っている。」とある。ただし、上筒香・中筒香ともに、棚の形態に関する詳細な記述はなく、写真や図もないため、具体的な祀り方については不明であった。下筒香には無縁仏に関する記述は見当たらない。このほか、富貴の報告にも無縁仏に関する記載はない〔垣内一九六七〕。『和歌山県の民俗分布図』には、高野町内に「ガキナを作る」の事例については記載がない〔和歌山県教育委員会 一九七九〕。

以上のように、高野町では無縁仏の棚についてはほとんど情報がない状態であった。しかし、筆者の調査では、高野町のすべての集落において、無縁仏を祀る習俗があり、古くからの家であればほとんどが無縁仏を祀っていることが分かった。

無縁仏の棚は、新仏とは異なり、先祖の祭壇と同じように毎年祀られる。高野町周辺では、盆に地域の寺院で無縁仏を祀る施餓鬼法要をすることがある。高野町では、高野山の奥之院で大きな施餓鬼棚が設置される（写真15）。ただし、山外の人たちが奥之院の無縁仏の棚に慣習として参るということは確認できなかった。上筒香では、八月一三日の夜に、集落の人々が延命寺に集まって無縁仏を慰めるために念仏を唱える（写真16）。屋外に施餓鬼棚のよう

なものは設置されないが、寺院内に祭壇が設けられている(写真17)。

高野町では無縁仏のことを複数の名称で呼んでいる。「三界万霊」の経木を祀ることから、サンガイバンレイ・サンガイサン(東又・杖ヶ藪・檜原・南・林・西ヶ峰・大滝・相ノ浦・下湯川・花坂・細川・西郷(神谷・尾細・作水))と呼ぶこともあるが、ムエンサン(大滝・相ノ浦・上湯川)、ガキサン(富貴・相ノ浦)、ソトボトケ(東富貴・西郷(作水))、ガキラ(上筒香)などとも呼ばれる。

無縁仏の祀り方については、実に多様な形態が存在することが分かった。大きく分類すると以下のようなになる。

- ① 桶・樽・箕・もろぶた・テーブル・箱・コンテナ・椅子・バケツ、など何かの台の上に祀る。棚の上にござ・すだれ・帽子・傘などを付ける場合もある。
- ② 籠・コンテナ・箱の中へ祀る。
- ③ 棚を設ける。
- ④ 花筒だけを立てる。

棚の形態の違いは、地域的な差異が顕著である。②は上筒香・中筒香・下筒香・東細川・西細川・西郷、③は花坂、④は相ノ浦・花坂に分布している。①は町内に最も広く分布している。ただし、桶・樽は富貴、もろぶたは檜原・杖ヶ藪・東又・南・下湯川・花坂、箕は西郷、コンテナは細川、箱は上筒香に分布している。このうち、桶・樽・バケツの上に経木・供え物を載せ、ござ・すだれなどで覆いをする形態は、富貴・上筒香のみで確認できた。

祀る場所をみると、庭・軒先・縁側・座敷に分かれる。座敷に祀るのは新しいようである。表1の25の家(林)では、もともと無縁仏は縁側などで祀っていたが、最近になって先祖と並べて祀るようになったという。ただし、先祖と

同じ祭壇に経木を祀っても、表1の3のように、先祖の経木とは離して三界万霊の経木を置いている家もある。

軒先と縁側は一体のこともある。軒先に祀って、縁側に供え物を置く場合も多い。この場合、経木は軒先に祀ることも、縁側に祀ることもある。庭に花筒などを立てていても、経木を祀るのは座敷という場合もある。

供える物は、先祖と同じような料理・茶・野菜・果物・菓子などである。無縁仏に供えた物は食べない、という語りもあるが、先祖の供え物と同じように食べた、という家もある。無縁仏を先祖と差をつけて祀るという語りもみられるが、先祖と同じように祀り、同じように送るという語りも多い。

五 高野町の盆棚の分類

高野町の盆棚について、先祖・新仏・無縁仏すべてをまとめたものが表2である。祭祀場所によつてA～Fに分けたうえで、盆棚の形態について細かく分類した。盆棚の分類については、喜多村や高谷の先行研究があるが(喜多村一九七七a・一九七七b・一九七七c・一九八五、高谷一九八五・一九九五など)、それらには出ていない形態が多数存在したため、独自に分類を試みた。同じ祭祀場所のなかでは、簡単な形態から順に並べた。祭祀対象が明確ではないものも含めている。また、盆の「仏迎え」に際して臨時に設けられるものという意味で、墓地・寺院における高灯籠、墓地の供え物、迎え火の竹、軒先のカヤについても含めた。高灯籠などは盆棚とは別に論じられることが多かったが(岩田 二〇〇三)、同時に並べることで、盆祭祀の実態がより明確になると思われるからである。

話者の語りだけではなく、位牌・経木・花筒などの置く場所にも注目するとさまざまなことが分かる。位牌の置く場所は仏壇の中が多いが、床の間の祭壇

に出して並べる家がある。ただし、仏壇の前の祭壇に位牌を置く事例はみられなかった。これは、仏壇と仏壇の前の祭壇が連続した意味合いが強いからであろう。経木は庭から仏壇まで幅広く置かれる。三界万霊（無縁仏）は庭で祀るが、経木のみ床の間・仏壇の前の祭壇に置くという場合もある。先祖の経木を置く場所は床の間の祭壇・仏壇の前の祭壇・仏壇に分かれる。花筒は外に竹の花筒を立てる場合は、仏の目印、依り代的な意味合いがあると思われる。供え物とともに立てる場合と、供え物とは切り離して立てる場合がある。供え物のみを屋内に置く場合は、無縁仏の祭祀場所が屋外から屋内へ変遷しつつある過程のように思われる。花筒を屋内に置く場合、縁側・床の間・仏壇の前ともに、祭壇の上もしくは横に置く。祭壇の上に置く場合は、依り代的な意味合いが強いと思われる。花筒に経木をくくりつける事例は、より依り代的な意味合いが強い。

先祖は床の間・仏壇の前・仏壇、新仏は軒下・縁側・座敷・床の間、無縁仏は庭・軒先・軒下・玄関・縁側・床の間・仏壇の前で祭祀される。無縁仏の祭祀場所が最も幅があることになる。ただし、町内の事例を並べると、先祖・新仏・無縁仏の祭祀場所が固定されたものではないことが分かる。家ごとにもそれぞれの祭祀場所が必ず決まっているというものでもないようである。新仏を祀るために先祖の祭壇を簡略にする、新仏を祀るときには無縁仏を祀らない、という場合もある。このほか、先祖・新仏・無縁仏のいずれとも語られないが、床の間に別途祭壇を設けている家もある。

さらに、軒下に提灯、軒先にカヤ、庭に迎え火の竹、墓地に葉の上に載せる供え物、墓地・寺院に高灯籠が設けられる場合がみられる。墓地での供え物を除くと、これらは先祖などが墓地・寺院から家へと至る道筋を示しているように思われる。ただし、高野町でも全地域ですべての習俗をおこなっているわけ

ではない。高灯籠を立てる習俗は富貴・筒香、墓地で葉の上に供え物を載せる習俗は杖ヶ藪・東又・林・南、軒先にカヤなどを置く習俗は東又・檜原（小安）・林・南・大滝・相ノ浦、迎え火の竹を立てる習俗は富貴・檜原・西郷に分布している。

盆棚の祭祀場所について、時代的な変化が起きていることもうかがえた。つまり、聞き取りで確認できる範囲の時期、昭和中期以降においても確実に祭祀場所に変化が起こりつつある。高野町内では先祖の祭壇はあまり変化がない。それに対し、新仏は軒下・縁側から床の間へ、無縁仏は庭・軒下・縁側から床の間・仏壇の前へ、と移動する傾向がみられた。

棚の形態としては、先祖・新仏・無縁仏それぞれに特徴がみられた。先祖はもろぶた・机を出して祭壇にする。もろぶたを置く形態は、高野町では古いタイプのように思われる。このように判断したのは、先祖の祭壇に用いる道具として古いものであるというだけでなく、比較的古い風習を残している家で見ついているという理由もある。また、もろぶたを使つて無縁仏を祀る事例も多く、語りの中で昔は新仏ももろぶたを台にした、という事例（表1の9）などがあった。もろぶたは高野町の盆棚ではかつては広く用いられていた可能性がある。現在では、先祖の祭壇は机の上に白い布などを敷いたものを用いる家が多くなっている。

新仏の場合は竹を組んで棚を作り、ヒノキの葉などで覆った屋形を作る形態が多かった。ところが、現在では高野山を除いて葬儀屋から購入した祭壇に変化してきている。

一方、無縁仏の棚は多様な形態が存在する。先祖の祭壇と新仏の棚の場合は、時代による変化によって形態の差が生じていると思われる。しかし、無縁仏の棚の場合、時代的な変化を推測することは難しい。檀那寺ごとに形態が異

なっているわけでもないため、寺院の影響を指摘することも困難である。今のところ、無縁仏の棚の地域差については、山麓地域とのつながりに起因する可能性を指摘しておきたい。表1の54の家（花坂）ではかつらぎ町志賀と類似していると言われる。花坂周辺の形態はかつらぎ町・紀の川市方面との類似性が考えられる。西郷の形態は九度山町方面に類似したものが多く、富貴のござを巻く形態は橋本市方面と類似している。ござを巻く形態は、比較的新しく発展したもののように思われるが、今後さらに広範囲に調査を進めることで分布と変遷過程を明らかにしていこうと考えている。摩尼地域の形態は、奈良県方面と類似している可能性がある。盆棚の地域差を説明するためには、さらに高野町周辺の盆棚と広く比較する必要がある。また、生業などさまざまな民俗とも比較して分析することも必要である。

六 今後の課題

本稿では、和歌山県高野町における盆棚を町内全域で調査した内容を提示した。その結果を関沢まゆみの提示した分類と照らし合わせると、近畿地方の盆棚とされた第3類型に当てはまる。また、祭祀場所がここ数十年の間でも屋外から屋内へと移り変わりつつある様子もうかがえた。こうした結果は、先行研究と共通した結果内容である。

ただし、高野町にはこれまで知られていなかった盆棚の形態や盆行事の内容が多数みられることが明らかになった。高野町に存在する多様な形態の盆棚、高灯籠、「仏の橋」などは、これまでほとんど報告されたことがなかったものである。今後は、このような特定地域の多彩な事例を全国的な事例と相互に比較しながら、全国的な類型を位置づけなおしていく必要がある。

このほか、高野町においては、先祖の霊を迎える行為として、檀那寺から経

木をもらう、墓参りをする、高野山まで行く、という三種類が存在することも分かった。高野山周辺では、高野山奥之院に納骨する風習があるため、祖霊は高野山から戻ってくると考える感覚がみられる。直接的に高野山まで迎えに行かなくても、高野山の檀那寺から経木をもらうことで祖霊が戻ってきたと考えていると思われる。一方で、埋葬した墓地から先祖を迎える集落もみられた。また、集落の寺院で経木をもらう場合にも、埋葬地から仏を迎えるという感覚がある。埋葬地が集落の寺院付近に存在する場合も多いことからである。

高野町の集落は、日常的に高野山と深く結びついて暮らしてきた。盆行事なども当然ながら高野山の寺院から影響を受けていると思われる。しかしながら、盆棚の形態についても、仏迎えの行為においても、高野町内だけでも様ではない。こうした事実は、盆棚の形態が宗派や寺院の影響のみで説明できない可能性を示している。このように、特定の地域だけをみても、盆棚および盆行事の地域差や変遷について考える要素が多く含まれることが分かってきたのである。

本調査では、特定地域における重点調査の必要性を痛感することとなった。和歌山県は盆棚の事例が現在でも豊富である。今後、もう少し広い範囲である郡や河川流域レベルでの盆棚の比較研究をおこなうことで、地域差の意味や、時代による変化の具体的様相を明らかにする必要がある。

(注)

- (1) 旧熊野川町では熊野川町史編纂のため川をめぐる民俗・生業・年中行事など、旧粉河町鞆淵では和歌山県立博物館特別展のため年中行事、旧日置川町では日置川町史編纂のため生業・信仰・年中行事など、かつらぎ町天野では丹生都比売神社史を中心に、和歌山県の六斎念仏調査、近畿

大学民俗学実習として信仰・祭礼・年中行事・生業など、高野町では高野町史編纂のため生業・年中行事を調査した。こうした調査の一環として、それぞれの地域において盆行事の調査もおこなってきた。

- (2) 平成二三(二五)年度科学研究費補助金基盤研究(C)「紀の川流域における中世荘園の地域環境史的研究」(研究代表者・高木徳郎)、近畿大学文学部民俗学実習、近畿大学民俗学研究所などの調査の一環として、紀美野町・紀の川市・橋本市・九度山町・かつらぎ町・岩出市・有田川町において盆行事の調査を継続している。

- (3) 平成二〇年(二〇〇八)は八月一四・一五、平成二二年(二〇〇九)は八月一三・一四、平成二二年(二〇一〇)は八月一三・一四日に高野町史編纂室の長岡弘樹氏とともに調査をおこなった。また、盆以外の期間に聞き取りした内容、および、長岡弘樹氏が見学・撮影した盆棚の情報も含んでいる。富貴地区については、近畿大学の民俗学実習の一環で聞き取りした内容も含んでいる。事例64については、近畿大学民俗学研究所の調査として、橋本市・九度山町の盆棚を見学した際に見出したものである。

- (4) 高野町では多くの住民が真言宗の檀家であり、表1記載の家々も基本的にはすべて真言宗の檀家であった。

(参考文献)

- 伊藤唯真 一九七八 「盆棚と無縁棚」 大島建彦編『講座日本の民俗 六年中行事』有精堂出版
岩田重則 二〇〇三 『墓の民俗学』 吉川弘文館
大島建彦編 一九八八 『無縁仏』 岩崎美術社

伊藤信明 二〇一〇 「先祖を祭る」『和歌山県立文書館だより』二八
伊藤唯真 一九七八 「盆棚と無縁仏」 大島建彦編『講座日本の民俗 六年中行事』有精堂

垣内篤磨 一九六七 「富貴の習俗——伊勢講と七墓参り——」『和歌山地理学研究会報告 三——高野町富貴地区の研究——』和歌山地理学研究会

「角川日本地名大辞典」編纂委員会編 一九八五 『角川日本地名大辞典 和歌山県』 角川書店

喜多村(小松) 理子 一九七六 「新仏の祭り方——新設される棚の設置場所を中心として——」『民俗と歴史』三

喜多村(小松) 理子 一九七七 a 「盆棚のいろいろ(一)」『民具マンスリー』九一一

喜多村(小松) 理子 一九七七 b 「盆棚(二)——設置場所を中心として——」『民具マンスリー』九一二

喜多村(小松) 理子 一九七七 c 「盆棚(三)——棚の諸形態について——」『民具マンスリー』一〇一一

喜多村(小松) 理子 一九八五 「盆に迎える霊についての再検討——先祖を祭る場所を通して——」『日本民俗学』一五七・一五八

熊野川町教育委員会編 二〇〇二 『町史研究資料 一一 熊野川町の民俗家の行事編』 熊野川町教育委員会

熊野川町教育委員会編 二〇〇三 『町史研究資料 一二 熊野川町の民俗地域の行事編』 熊野川町教育委員会

熊野川町史編纂委員会編 二〇〇八 『熊野川町史 通史編』 新宮市

高野町史編纂委員会編 二〇一一 『高野町史 民俗編』 高野町
高野町立筒香小学校校編 一九九二 『平成三年度高野町教育委員会研究指定研

- 究集録 ふるさと筒香 地域を愛し主体的に生活する子どもの育成をめざして』高野町立筒香小学校
- 庄武憲子 二〇〇三 「徳島県の盆棚」『徳島地域文化研究』一
- 庄武憲子 二〇一四 「徳島県の盆棚」『四国民俗』四六
- 関沢まゆみ 二〇一三 「戦後民俗学の認識論批判」と比較研究法の可能性 盆行事の地域差とその意味の解読への試み」『国立歴史民俗博物館研究報告』一七八
- 関沢まゆみ・国立歴史民俗博物館編 二〇一五 『盆行事と葬送墓制』吉川弘文館
- 高谷重夫 一九八五 「餓鬼の棚」『日本民俗学』一五七・一五八（高谷 一九九五 『盆行事の民俗学的研究』岩田書院 収録）
- 高谷重夫 一九八八 「もらいまつりー盆行事の一問題」『日本民俗学』一七四（高谷 一九九五 『盆行事の民俗学的研究』岩田書院 収録）
- 高谷重夫 一九八九 「無縁仏の問題」『近畿民俗』一一八・一一九
- 高谷重夫 一九九〇 「水棚」『民俗（相模民俗学会）』一三七・一三八
- 高谷重夫 一九九四 「盆と施餓鬼」『あしな』一三七
- 高谷重夫 一九九五 『盆行事の民俗学的研究』岩田書院
- 中谷至告編・西喜好監修 二〇一〇 『国土交通省平成二〇年度超長期住宅先導的モデル事業（地域住宅モデル普及推進事業）おたき山の学校 おたきムラの教科書 高野町大滝 歴史と文化』高野町
- 丹生都比売神社史編纂委員会編 二〇〇九 『丹生都比売神社史』丹生都比売神社
- 野田三郎 一九七四 『日本の民俗 三〇 和歌山』第一法規出版
- 橋本市史編さん委員会編 二〇〇五 『橋本市史 民俗編・文化財編』橋本市
- 日置川町史編さん委員会編 二〇〇五 『日置川町史 一 中世編』日置川町
- 藤井弘章 二〇〇〇 「ふるさとの歳時記 ⑧ 盆の行事」『ニュース和歌山』二〇〇〇年三月二三日
- 藤井弘章 二〇〇一 「鞆淵の年中行事」『和歌山県立博物館研究紀要』七
- 藤井弘章 二〇〇九 「下天野の六斎念仏」紀伊山地の霊場と参詣道関連地域伝統文化伝承事業実行委員会編『高野山麓の六斎念仏』紀伊山地の霊場と参詣道関連地域伝承事業実行委員会
- 藤井弘章 二〇一七 「高野山納骨習俗の地域差——和歌山県北部を中心に——」『民俗文化』二九
- 松長有慶 二〇一四 『高野山』岩波書店
- 松本保千代 一九七九 「和歌山県の葬送・墓制」堀哲・井阪康二・橋本鉄男・岩井宏美・星田公一・松本保千代・原泰根『近畿の葬送・墓制』明玄書房
- 最上孝敬 一九六〇 「無縁仏について」『西郊民俗』一三（最上 一九八四『靈魂の行方』名著出版 収録）
- 最上孝敬 一九七五 「盆の祭り」『月刊文化財』一四二（最上 一九八四『靈魂の行方』名著出版 収録）
- 森隆男 一九九一 「仏壇と盆棚の間」近藤直也編『座——それぞれの民俗学的視点』人文書院（森 一九九六『住居空間の祭祀と儀礼』岩田書院 収録）
- 森本一彦 二〇〇〇 「双系制親族論に関する再検討——モライマツリ・トウマイリを中心として」『国際日本研究』創刊号（森本 二〇〇六『先祖祭祀と家の確立——「半檀家」から一家一寺へ——』ミネルヴァ書房 収録）
- 柳田国男 一九四六 『先祖の話』筑摩書房（一九六九『定本柳田国男集』一〇 筑摩書房 収録）

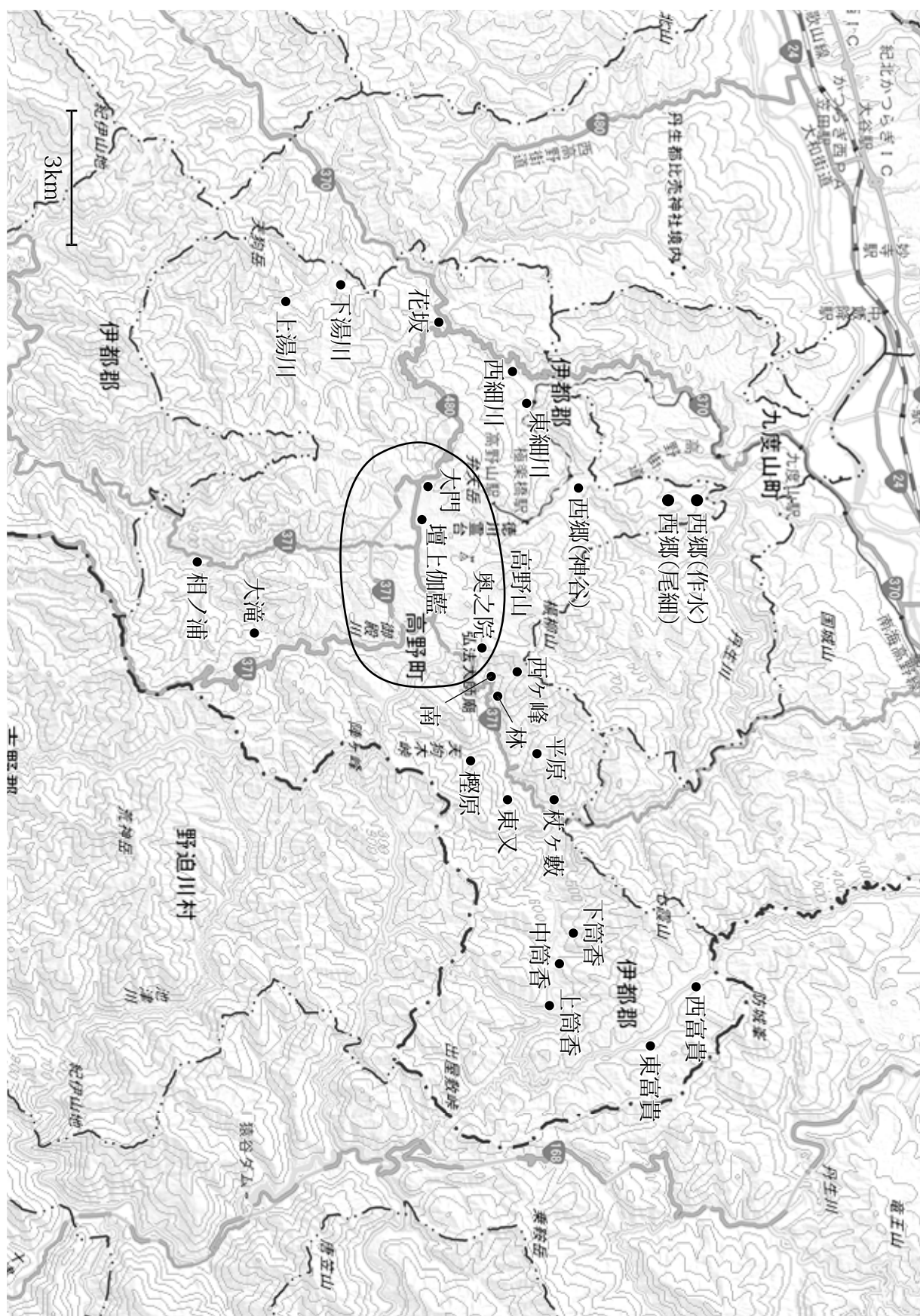
矢野建彦・日野西眞定 一九九五 『高野山四季の祈り 伝灯の年中行事』 佼
成出版社

和歌山県教育委員会編 一九七九 『和歌山県民俗分布図 民俗文化財緊急分
布調査報告書』 和歌山県教育委員会（兵庫県教育委員会・大阪府教育委員
会・和歌山県教育委員会編 一九九九 『都道府県別日本の民俗分布地図集
成 九 近畿地方の民俗地図 二 兵庫・大阪・和歌山』 東洋書林 収録）

（付記）

高野町における盆行事の調査は、表1の64をのぞいて高野町史民俗編の調査
によるものである。当時の高野町史編纂委員、および編纂室の方々には大変お
世話になった。編纂室の長岡弘樹氏には調査の調整をいただき、ほぼすべての
盆行事調査に同行いただいた。編纂委員の森本一彦氏、伊藤信明氏にはこの地
域の盆行事についてご教示いただき、また一部同行いただいたところもある。
平成二二年度（二〇〇九）・二二年度（二〇一〇）には富貴地区で、平成二三
年度（二〇一一）には花坂地区で近畿大学民俗学実習でもお世話になった。高
野町では多くの方々にお話をうかがった。すべての方々にあらためて御礼申し
上げたい。この報告が高野町に暮らしてきた方々の生活文化の一端を記録とし
て残すことに貢献できればと願っている。

なお、注記したもの以外の写真は筆者撮影のものである。



地図 1 高野町 (国土地理院の電子地形図に加筆)

表 1 高野町の盆棚事例

番号	地名	話者 (生年)	祭祀対象	祭祀場所	棚の名称	棚の形態と祀り方	話者の説明	写真	盆の概要	調査年月日
1	高野町東富貴	中元達雄 (昭和2年)	先祖	床の間		床の間に祭壇を作って位牌・経木 (先祖代々・50 回忌までの仏)・果物・菓子などを置く。前に野菜・果物などを並べ、その前に膳 (2)・茶 (3) を置く。周囲にはろうそく立・線香立・鉦などを置き、床の間には四国 88 所、西国 33 所の掛け軸を掛ける。 (調査時の膳は 3 組で、ご飯・ぜんまいなど 4 品。花はコウヤマキ・シキミ・菊など。)	ガキは外へ祀っていた。今年は中へ祀っている。昔は樽を台にしていた。 18		真言宗。12 日に東富貴の宝蔵院から経木をもらう。以前は 14 日に迎え松明を焚いた。14 日に家で祀る。タナギョウ (僧侶の檀家回り) は 13 日と 14 日。15 日の早朝に墓へ送る。このときに送り松明を焚いた。盆に、青年団が七墓参りをして念仏を唱えた。 2008 年 8 月 14 日	
							屋敷の入り口			屋敷の入り口に、新竹にくくりつけて松明を焚いた。今は焚いていない。
2	高野町東富貴	福井	先祖	仏壇の前		仏壇の位牌の前に経木 (先祖代々) を置き、野菜などを置く。前に机を出して茶・ろうそく立・線香立・鉦などを置く。 祭壇を組んで、上の段に業者から買った屋形を置く。屋形の前に位牌・提灯を置き、大きな葉を敷いて野菜などを置く。真ん中の段には果物・菓子などを置く。下の段には水などを置く。前に台を置き、茶・ろうそく立・線香立・鉦などを置く。祭壇の両側には灯籠・花筒・他家からの供え物を置く。 (調査時の仏壇の花はコウヤマキと色花、祭壇前方の花はコウヤマキ・オミナエシ・菊、祭壇後方の花はキキョウ・ユリなど。)	昔は新仏は縁側にしていた。場所が狭いので仏壇の横にしている。 19			2008 年 8 月 14 日
						無縁仏	縁側の外		木の箱を台にして、大きな葉を敷き、経木 (三界万霊)・野菜などを置く。上はござで覆う。横に花筒をつける。縁側には茶・供え物などを置く。棚は縁側を向いている。 (調査時の花はコウヤマキ・シキミ・菊。)	

3	高野町東富貴	板谷公八 (昭和17年)	先祖 床の間 (仏壇の横)		「南大師遍照金剛」の掛け軸を掛け、前に机を置く。机の上には位牌・経木 (先祖代々・50回忌までの仏)・野菜・果物・花筒・ろうそく立・線香立などを並べる。先祖などの経木と離して三界万霊の経木を置く。机の前に膳・鉦などを置く。 (調査時の膳は水だけだった。花は机の上はコウヤマキ・シキミ、机の両側はコウヤマキ・シキミ・オミナエシ・キキョウ・ユリ・菊など。)	21	真言宗。12日か13日に東富貴の宝蔵院へ経木をもらいに行く。13日の夜に迎え火、14日の夜に送り火を焚く。14日に家で祀る。15日の朝に墓へ送る。経木を墓へ持っていく、供え物は川へ流した。今は経木は寺へ納め、供え物は流さない。	2010年6月17日・8月13日	
			無縁仏 縁側の外	ガキサン	箱の上に野菜などを載せ、上はすだれで覆う。縁側にはろうそく立・線香立・水などを置く。棚は縁側を向いている。 (この年は、経木を先祖の祭壇に置いていた。調査時の膳は水だけ。花はコウヤマキ・シキミ・菊など。)	22・23			
			屋敷の入り口	屋敷の入り口に、竹を立てて花を挿し、横に細長い竹を立てる。	屋敷の入り口に立てた竹に松明をつけて焚いた。今は迎え火・送り火は焚かない。	24			
			先祖 仏壇の前 (床の間の横)	仏壇の位牌の前に経木 (先祖代々・50回忌までの仏)を並べ、大きな葉の上に野菜などを置く。前に机を置き、果物などを置く。机の前には花筒・膳・鉦などを並べる。 (調査時の膳は水だけだった。花は仏壇にはコウヤマキ・シキミ・菊など、下には菊など。)	供えるものは家で作ったもの。膳は3つか5つオバス (供える)。お茶は1日に何十回と替える。	25			
4	高野町東富貴	隠地前榮治 (昭和7年)	無縁仏 縁側の外	ソトボトケ	今は、椅子のような台の上に、大きな葉を敷いて経木 (三界万霊)・野菜などを置き、上をござで覆う。縁側には大きな葉を敷き野菜を載せ、花筒・ろうそく立・線香立・茶・やかんなどを置く。棚は縁側を向いている。 (調査時の花はコウヤマキ・シキミ・菊。)	26・27	家の先祖ではなく、だれも祀ってくれない人を提供する。外で祀る。桶の上にござを巻いた。ござはたぶん雨よけにしていると思う。椅子があつたら椅子に置く。昔はテシマだけ雨よけに掛けていた。50年も60年も前のこと。テシマとは、カッパとして背中へ掛けたもの。紙に油を敷いたもので、水をはじく。	2010年8月13日	
			(火)	屋敷の入り口	14日の夕方と15日の夕方に松明を焚く。松の根を細かくして、竹の枝に花のように火をつける。割り箸ぐらいいに割ったのを束にして枝に刺す。花が咲いたようにする。これで仏を迎える。最近はしていない。				

5	高野町西富貴	河本邦弘	先祖	仏壇の前 (床 の間の横)		仏壇の位牌の前に経木（先祖代々・50 回忌までの仏）を並べる。前に机を置 き、野菜・果物・花筒・ろうそく立・ 線香立・鉦などを置く。机の前には 膳・茶・鉦などを並べる。 （調査時の膳はご飯・汁物・煮物・漬 物など5品。花はコウヤヤキ・キキヨ ウ・菊・蓮など。花筒の下にホウズキ を置く。床の間にシキミと菊を立てて いた。）	膳は6つから7つ。5つぐらいの ときもある。家によって違う。道28 具が大変なので6つにしている。		真言宗。13日に西富貴の阿弥陀院 へ経木をもらいに行く。15日の早 朝、墓へ送る。	2008 年 8 月 14 日
			無縁仏	縁側の外	ガキダナ	桶を台にして、大きな葉を敷き、経木 （三界万霊）・野菜を載せる。上はすだ れで覆う。縁側には膳・野菜・花筒・ ろうそく立・線香立・茶・やかんなど を置く。棚は縁側を向いている。（調 査時の膳と花は先祖の祭壇と同じ。）	外で亡くなった人、身よりのない 人を祀る。	29		
			先祖	仏壇の前		仏壇に経木（先祖代々・50回忌まで の仏）を並べ、大きな葉の上に野菜な どを置く。前に机を置き、果物などを 置く。机の前には花筒（花瓶）・膳・ 茶・ろうそく立・線香立・鉦などを並 べる。仏壇の横に西国33所の掛け軸 を掛け、その前にも野菜・果物・膳・ 茶・花筒（花瓶）などを並べる。 （調査時の膳は水か。花はコウヤヤ キ・菊など。）		30		
6	高野町西富貴	宮口		仏壇の横		仏壇の横に西国33所の掛け軸を掛け、 前に机を置いて白い布を掛ける。大き な葉を敷いて野菜・果物などを置く。 両側に花筒（花瓶）・ろうそく（電気） を置く。菓子も置く。 （調査時の花は先祖の祭壇と同じ。）				2008 年 8 月 14 日
			無縁仏	縁側の外		桶を台にして、大きな葉を敷き、経木 （三界万霊）・野菜を載せる。上はすだ れで覆う。横に花筒をつける。縁側には 果物・線香立・茶などを置く。棚は 縁側を向いている。 （調査時の膳は水か。花は先祖の祭壇 と同じ。）		31		
7	高野町西富貴	井阪貴美（大 正15年）	先祖			仏壇の位牌の前に経木（先祖代々・50 回忌までの仏）を並べ、大きな葉の上 に野菜などを置く。前に祭壇を設置 し、上の段には果物・茶など、下の段 に膳などを並べる。祭壇の前にはろう そく立・線香立・鉦などを置く。祭壇 横に花筒を置く。仏壇の両側に弘法大 師と十三仏の掛け軸を掛ける。 （調査時の膳は水か。花はコウヤヤ キ・シキミ・オミナエジ・ミソハギ・ 菊など。）		32	真言宗。15日の早朝、墓へ送る。 供え物・経木を持って行く。花を 持って行くのは大変なので、14日 の夕方、花を墓へ立てておく。15 日は経木・線香・ろうそくを持っ て墓へ参る。	2008 年 8 月 14 日

		無縁仏	縁側の外	ガキサン	バケツを台にして、大きな葉を敷き、経木・野菜などを載せる。上はござで覆う。横に花筒を置く（本当はくくりつけるといふ）。縁側には机を出し、茶・菓子などを置く。机の前にはろうそく立・線香立・鉦・やかんなどを置く。棚は縁側を向いている。（調査時の膳と花は先祖の祭壇と同じ。）	ガキサンのお供えは子どもが取って食べていた。子どもの喜ぶものを供えていた。だいたいはその家の子どもが食べていた。よそまで行って食べることはなかった。	33・34
		庭			花筒を立てる。 （調査時の花はコウヤマキ・オミナエシ・ミソハギ・菊）		35
		先祖 仏壇（床の間の横）			仏壇の位牌の前に経木（先祖代々・50回忌までの仏）を並べ、大きな葉を敷いて野菜・果物などを載せる。前に机を置いて白い布を掛ける。机の上に茶・花筒などを置く。机の前に台を置き、ろうそく立・線香立・鉦を置く。（調査時の膳は水。13日に訪問したため、机の上に野菜などはなかった。花はコウヤマキ・シキミ・菊・ヒマワリ。）		36
8	高野町西富貴 岡本幸治（昭和10年）	新仏	縁側		縁側へ祀る。		真言宗。12日に西富貴の阿弥陀院へ経木をもらいに行く。仏迎えという。14日に迎え松明を焚く。15日の早朝、墓へ送る。送り松明を焚く。檀家参りは13・14日。
		無縁仏	縁側の外	サンガイサン	コンテナを縦にして台にし、大きな葉を敷き、経木・野菜などを載せる。上はござで覆う。縁側には茶・水・果物・菓子・やかんなどを置く。棚は縁側を向いている。少し離して新竹を置き、花・ろうそく・線香を立てる。（調査時の膳と花は先祖の祭壇と同じ。）	祀ってくれる人のいない無縁仏。家の中へは入れないで、屋外でお祀りする。大深（奈良県五條市）では麦わら帽子をかぶせている。37・38	
		先祖 仏壇の前（床の間の横）			仏壇の位牌とともに経木（先祖代々・50回忌までの仏）を並べ、大きな葉を敷いて果物などを載せる。仏壇の前に机を置き、菓子・茶などを置く。（調査時の花はコウヤマキ・菊など。）	昔は縁の隅へ祀った。昔はもうぶたを伏せて白い布を敷いて段を作った。ヒノキの青い葉で覆った。今は、葬儀屋が四九日まで段ボールを置いていた。それを利用して新仏は祀ずかしいので、ちょっと隠れたところへ祀ってほしいといった。今の仏さんは祀ずかしいの（調査時の祭壇の花はコウヤマキ・蓮など、祭壇の両側はヒマワリ・菊など。）	39
9	高野町西富貴 藤本（女性、80代）	新仏	床の間				真言宗。14日の夜に迎え松明、15日の夜に送り松明を焚く。

			無縁仏	縁側の外	サンガイノバン レイサン	コンテナを縦にして台にし、大きな葉を敷き、経木（三界万霊）・野菜などを置く。上はござで覆う。縁側には花筒・茶・練香立などを置く。棚は縁側を向いている。 （調査時の花はコウヤバキ・ヒマワリなど。）	つけもん（漬物）桶、水桶などをひっくり返して、その上にカッパをくるくるっと巻いた。	40・41	
			先祖	仏壇の前		仏壇の前に机を置いて祭壇にし、バショウの葉を敷き、水の入った器に入れた経木（先祖代々・弘法大師）を置く。そのほか、野菜・果物・菓子・花筒（花瓶）などを置く。机の前に小さな台を置き、ろうそく立・練香立・鉦などを置く。その前に膳（2）を置く。 （調査時の膳はご飯・煮物の2品。花はコウヤバキ・シキミ・オミナエシ・菊など。）	42		
10	高野町上筒香	大谷敏一（大正14年）	無縁仏	軒下	ガキラ	ボールケースを台にし、バショウの葉を敷いて、経木（三界万霊）・野菜・ご飯・茶・箸などを置く。ござで覆う。横に花筒をつける。棚は縁側を向いている。縁側にはやかんを置く。 （調査時の料理はご飯のみ。花はシキミ・オミナエシなど。）	無縁仏は三角にしている家もあるし、籠に祀っている家もある。まちまち。大谷さんの家では子ども家によってなぜ違うかわからない。富貴には遠い親戚がいるが、まねをしたわけではない。	43	
			先祖	新仏の棚の横		新仏の祭壇の横に位牌を並べ、花筒を立てて、供え物を置く。			
			新仏	仏壇・床の間の前		仏壇と床の間の前に祭壇を設ける。最上段に遺影と他家からの供え物を置く。真ん中の段には他家からの供え物を置く。最下段には位牌・果物・菓子・花筒を置く。祭壇の前に台を置き、経木（複数枚）・鉦などを置く。祭壇の周囲には花筒・灯籠・他家からの供え物などを置く。 （調査時の花はシキミ・オミナエシ・ユリなど。）	44		
11	高野町上筒香	福西勝久（昭和25年）	無縁仏	軒下	ガキラ	籠（竹）を横にして、経木・野菜・果物・花筒などを入れる。 （調査時の花はシキミ・オミナエシ。）	かつては富貴で市があった。籠を背負って買い出しに行った。その籠をそのまま転用している。富貴の祀り方の方ほうが丁寧。ここではあるものでやっている。古い家では富貴と同じ形になっている。大谷さんの家は富貴の形。子どもたちが、お供え物を1つだけいただいて帰っていた。いいものからなくなっていく。最後はキュウリ、ナスだけが残る。桃などがあるとうれしかった。	45	真言宗。7日に墓掃除。7日に上筒香の西方寺へ経木をもらいに行く。仏迎えという。14日に祀り、15日の早朝に川へ送る。経木を川へ流す。今はすぐに拾い上げて燃やす。新仏は12日か13日から祀る。
									2010年8月13日・14日
									2008年8月14日・2011年1月3日

			先祖						真言宗。7日、上筒香の西方寺に東富貴の宝蔵院から経木を書きに来る。以前は高野山の回向院から来ていた。各家から西方寺へ経木をもらいに行く。仏迎えという。先祖代々・弘法大師・三界万霊の3枚の経木をもらって帰る。新仏は別に経木を頼む。13日の夜は総回向といって西方寺に集まり、無縁仏の霊を慰めるために念仏を唱える。14日に家で祀る。14日の夜は西方寺に集まり、念仏を唱えたあと、家ごとに戻って念仏を唱える。今は新仏の家だけ回る。15日の早朝に川へ送る。15日は、あこならんまに(明るくならないうちに)早よ送る。前の川へ送る。早よ送らな、仏さんが遅れてしまうといって、早く送り出す。線香・ろうそくを立てて、お勤めして川へ送る。それから墓参りをする。盆過ぎに高野山へ総登りをした。	2010年8月 6日・8月14日
12	高野町上筒香	永井雅徳 (昭和3年)	無縁仏	外	サンガイバン レイ	柎の上に縦にした段ボール箱を載せ、その中に経木 (三界万霊)・野菜などを入れる。	三界万霊は、家の外へお祀りする。段ボール箱を横にして祀る。籠を横にして祀る家もある。昔は籠が多かった。永井さんの家では籠だった。籠は簡単に世話ない。腹へつけるコシヅケという籠。蚤の籠ではない。昔から、富貴のように、ごさをかけている家もあった。富貴に親戚がいるかどうかは関係ない。丁寧にしている。	46		
13	高野町上筒香	永井氏の近所 の家		軒下		籠 (ビニール製) を横にして、供え物などを入れる。花筒を横につける。(調査時の花はコウヤマキ・オミナエシなど)		47	2010年8月 14日	
			先祖					49		

14	高野町中筒香	西山一高	新仏 (家)	床の間		床の間に四国88所の掛け軸を掛け、前に祭壇を設ける。最上段に業者から買った屋形を設置する。屋形の中に経木（新仏）を置き、前に提灯を吊るし、はしごをかける。屋形の隣に遺影を置く。真ん中の段には位牌・野菜などを置く。最下段には果物などを置く。祭壇の前に台を置いて白い布をかける。台の上には水を入れた器を置き、シキミを入れる。そのほか、ろうそく立・線香立・鉦・団子などを置く。台の前に膳（1）を置く。祭壇の両側には花筒・灯籠・他家からの供え物などを置く。 (調査時の膳はご飯・汁物・煮物など7品。祭壇後方の花筒は色花、祭壇前方の花筒は菊などの色花。)		縁側には、自分の家以外の集落の新仏を祀る。昔は親戚だけを祀っていた。今は村中の新仏を祀るようになった。	48・49	真言宗。7日に中筒香の延命寺で経本をもらう。仏迎えという。14日に家で祀る。 14日の夜には新仏の家を回って拝む。家を回ったあとは、寺へ集まって念仏を唱える。15日の早朝、川へ送る。	2008年8月 14日・15日
			新仏 (村)			机の上にバショウの葉を敷き、経木（村の新仏、このときは2枚）・野菜・果物・菓子・花筒（竹）・灯籠を載せ、前に膳・やかんを置く。 (調査時の膳は先祖・家の新仏と同じ。花はコウヤマキ・シキミ・オミナエシなど。)		その辺をさまよっている。仏の世界から帰ってきたときに家がない。コッパでお茶を入れて、サンガイのカキサンに飲ますようなかっとうで、1日に12、3回オチャトをする。	50		
			無縁仏	軒下	ガキサン	机の上に、横にした籠（竹）を置く。籠の中にバショウの葉を敷き、経木（三界万霊）・野菜などを入れる。籠の前に膳・茶・団子などを置く。横の戸袋に花筒（竹）をにつける。 (調査時の膳は先祖などと同じ。花は村の新仏と同じ。)			51		
			無縁仏	軒下		籠（竹）を横にして供え物などを入れる。					
15	高野町中筒香	西山氏の近所 の家	先祖			仏壇に経木（先祖代々・弘法大師）を並べ、果物などを置く。前に机を置き、果物・茶・ろうそく立・線香立・鉦などを置く。机の前には膳・花筒（竹・花瓶）・団子などを並べる。 (調査時の花はコウヤマキ・オミナエシ・ミソハギ・菊など。)			52	祭壇で祀る。	2008年8月 15日
			新仏 (家)								
			新仏 (村)	縁側		縁側には、机を置き、経木（新仏）・野菜・ろうそく立・線香立・茶などを載せる。机の前に膳・団子を置く。机の両側には花筒（竹）を立てる。集落内の新仏を祀る。 (調査時の膳はご飯・汁物・煮物・酢の物・豆の5品。横に団子を置く。花は先祖の祭壇と同じ。)			53		
16	高野町下筒香	上岡利行の妻				籠（竹）を横にし、経木（三界万霊）・野菜・ろうそく立・線香立・茶などを入れる。籠の横には竹の花筒を置く。籠の上には帽子をかぶせる。 (調査時の花は先祖の祭壇と同じ。)			54		2008年8月 14日

					仏壇の位牌の前に経木（先祖代々・弘法大師）を並べる。物にも花筒（2、花瓶）がある。大きな葉の上に茶・ろうそく立・花筒（2、花瓶）を置く。前に机を置き、膳・箸・果物・茶・線香立・錠などを置く。机の横には花筒（花瓶）などを並べる。（調査時の膳はご飯・汁物・煮物・ぜんまい・豆の5品。花は仏壇にコウヤマキ、祭壇にオミナエシ・ミソハギなどの色花。）	チャットといって、供えてある茶は何回も替えた。110回しなさい、55といった。		真言宗。11日ごろ（以前は7日）に下筒香の栄山寺に経木をもらいに行く。この日は東富貴の宝蔵院から住職が来る。14日に家で祀る。15日の朝、カラスが鳴かんまでを送る。朝の3時ごろ、明かりをつけて寺へ持って行った。籠に経木や花を入れて持って行った。昔から川へは流さない。ひとどこへ納める。18日に高野山へ総登りをする。	
17	高野町下筒香	中山富千代（昭和6年）・博子（昭和15年）	新仏（村）			新仏はほかの家でも経木を祀る。			2010年8月5日・14日
		無縁仏	庭	サンガイバン レイ	ボテカゴ（竹）を横にし、経木（三界万霊）・野菜・線香立などを入れる。横に花筒をつける。籠の上には帽子をかぶせ、さらに傘を差しかける。（調査時の花はオミナエシ・ミソハギなどの色花。）	56			
18	高野町下筒香	上久保	無縁仏	庭（木の枝の上）		籠（竹）を横にし、中に経木（三界万霊）・野菜・ろうそく立・線香立などを入れる。籠の横に花筒をつける。籠の上には帽子をかぶせる。（調査時の花はコウヤマキ・オミナエシなど。）	57		2010年8月14日
19	高野町下筒香	福本	無縁仏	軒下（玄関横）		籠（竹）を横にし、中に経木（三界万霊）・野菜・ろうそく立・線香立などを入れる。籠の横に花筒をつける。籠の上には帽子をかぶせる。棚は玄関ではなく縁側を向いている。（調査時の花はオミナエシ・ホウズキなど。）	58		2010年8月14日

20	高野町杖ヶ敷	西辻平治 (昭和3年)・恵美子 (昭和3年)	先祖	床の間 (仏壇の横)	ホトケサン	床の間に四国88所の掛軸を掛け、前に机を置いて位牌を並べる。位牌の前に、もろぶたを置き、経木 (先祖代々・弘法大師) を入れた盆を立て掛け、経木の前に水を入れた器を置く。もろぶたの中にはほかに野菜・果物・菓子なども置く。生のそうめんの束も供える。もろぶたの前に膳 (6)・果物・菓子・酒・花筒・ろうそく立・線香立・鉦などを置く。膳の横におはぎも置く。 (調査時の膳は、麦餅・煮物・豆・おひたしの4品。横におはぎを置く。花はコウヤマキ・ユリ・菊・ホウズキなど。)	13日にお迎えしたときにはお茶をオアス (供える)。それからソーマに、もろぶたを置き、経木 (先祖代々・弘法大師) を入れた盆を立て掛け、経木の前に水を入れた器を置く。もろぶたの中にはほかに野菜・果物・菓子なども置く。生のそうめんの束も供える。もろぶたの前に膳 (6)・果物・菓子・酒・花筒・ろうそく立・線香立・鉦などを置く。膳の横におはぎも置く。 (調査時の膳は、麦餅・煮物・豆・おひたしの4品。横におはぎを置く。花はコウヤマキ・ユリ・菊・ホウズキなど。)	59・61	真言宗。経木は区長が高野山の遍照光院からもちってくる。経木は、先祖代々・お大師さん・三界万霊の3枝もらう。14日の朝に墓参りをして仏を迎える。それまでに、墓掃除をして、花を立てておく。青い柿の葉やナンキンノ葉などに、ミヨウガ・キユウリ・ナス・生の米などを載せて、墓へ供える。仏さんのごちそう。私の背中へおんぶするさかい上がったよ、と声を掛けて、迎えてくる。おんぶして帰ってきた。迎え火として、縁のところでろうそくを1本立てる。迎えてきたら縁から入る。14日に家で祀る。14日の屋に、杖ヶ敷の寺に集まって拜む。15日の朝に墓へ送る。	2009年8月13日
			新仏			机の上に盆に入れた経木 (三界万霊) を立て掛け、膳・花筒・ろうそく立・線香立などを載せる。横に盆を置き、大きな葉を敷いて、野菜・果物・菓子などを載せる。 (調査時の膳は、先祖と同じ。花はコウヤマキ・菊。)	新仏は縁で祀る。外から参ってもらいやすいようにしてある。			
			無縁仏	縁側	サンガイバベンレイ	ホトケサンと同じように祀り、一緒に墓へ送る。	62			
21	高野町杖ヶ敷	小峰正弘 (大正11年)	先祖				1晩だけ泊ってもらう。		真言宗。14日の朝に墓参りをして仏を迎える。14日に家で祀る。14日に寺で拜んでから、新仏の家に参る。15日の朝に墓へ送る。	2010年11月26日
			無縁仏	縁側の隅	サンガイバベンレイ	床の間に弘法大師・不動明王・十三仏の掛け軸を掛け、その前に飯・キユウリ・ニンジン・桃などを載せた三宝を置く。横に花筒 (1、花瓶) を置く。その前に経木 (先祖代々・弘法大師) を入れた盆を立て掛ける。経木の前に、はじきミと水を入れた器を置き、横に茶を置く。両側には果物を載せた三宝・花筒 (2、竹)・酒などを置く。床作った。15日の朝、オカイサンきな葉を敷いてその上へ野菜・果物を並べる。もろぶたの前には膳 (2)・線香立・鉦などを置く。 (調査時の膳はカボチャの煮物・おはぎ・豆腐の3品。花はコウヤマキ・シキミ・ユリなど。)	14日の朝はそうめんを供える。屋はご飯とぜんまい・ジャガイモなどを炊いたものを供える。シンモツ (新物) を供える。夕ご飯は、おはぎ・ごま豆腐・ナンキンを供えていく。おはぎは最近してな63・64 (茶粥) を炊いて、漬物とお供えしてから送る。 花筒はモンドリという。新竹の下花筒を割って開いて作る。		真言宗。経木は高野山の遍照光院からもちってくる。先祖・お大師さん・三界万霊の経木を受けてきて祀る。14日の朝に墓参りをして仏を迎える。墓には、ナンキンノ葉を敷いて、その上に、キユウリ・ナスなどを薄く切り、洗い米をまぶしておく。縁側から入る。3年ほど前に、高野山へ墓を移した。14日に家で祀る。15日の朝に地蔵さんか墓へ送る。上の方の家は、墓へ送ったが、下の方の家は地蔵さんへ送った。経木・花を納める。花筒は、持って行って、そのまま立てておく。流さない。新仏は早く祀る。12日ぐらいから祀る。新仏は、14日に、村の人が連れてお参りした。 松明は昔からなかった。	2009年1月3日・2月4日・2010年8月14日
22	高野町東又	下貞治 (昭和6年)・静子 (昭和9年)	新仏	軒先		新仏は屋形をこしらえる。新竹を長く切って、折り曲げて、柱にして、上はカヤかヒノキの葉で屋根にして、階段をこしらえて、中に経木を祀る。軒先へ作った。背丈が高いものをこしらえた。父と母が死んだときには、下さんが作った。今は葬儀屋が持ってくる。				

23	高野町歴史館 (小安) (調査時には 高野山にも家 を持ち、子安 の家と行っ たり来たりして いた。2009 年8月14日 の祭祀は高野 山の家。)	前正雄 (大正 13年)	無縁仏	縁側の隅	サンガイバン レイ	もろぶたの上に経木 (三界万霊) を入 れた盆を立て掛ける。もろぶたの上 には、シキミと水を入れた器を置き、大 きな葉を敷いて野菜・果物などを載 せる。そのほか、もろぶたの上にはら うそく立・線香立・茶などを載せる。 横に立を立て、花を挿す。もろぶたの前 には膳、周囲にはボット・花筒・果 物・紙などを置く。 (調査時の膳はカボチャの煮物・おは き・豆腐の3品。花はコウヤヤシ・シ キミ・ユリなど。先祖の祭壇よりも色 花の種類がわずかに少ない。)	縁側の外には、蕨 (この年は枯れた 花) などを置き、そこに茶をかける。	縁側の外には、蕨 (この年は枯れた 花) などを置き、そこに茶をかける。	雨垂れには、蕨か何かを敷いて、 そこへお茶を打ち掛けるようにす る。(この年は、枯れた花だった。) 敷いていたが、子どもたちが、コ ルプをして遊ぶので、取ってしま った。いわれは知らない。飛ぶか らか。蕨でもなんでもいい。	盆には新しいものを供える。桐の 葉を取って来て、供え物を載せた。 ナンキンノ葉にも載せた。今年は、 雨が降って桐の葉が取ってこれな かったのだ、サトイモの葉に載せ た。昔は田舎だったので、ナツメ があった。今は新暦なので、ナツ メはまだできない。	膳の料理は、14日の朝はそうめん、 屋はぜんまい・ナスじなどのおか ずを3品ほどする。夜はおはぎ・ ナンキン・おつゆ。 お茶はひっきりなしに替える。花 筒は真竹の新竹で作る。花筒を モンドリという。花は昔からカラ ヤとシキビ、コウヤヤシは墓には供 えるけど、盆には供えない。色花 はアワの花とカルカヤだった。ア ワの花は黄色い花。田んぼの周り に咲いた。田んぼ作らな くなくなった。カルカヤは奥之院の 裏にあったので、採っていた。シ キビは、先祖代々、家のほ に作っていた。墓もシキビばかり だった。	65	66	67・ 68	真言宗。8月10日に区長が高野山 の遍照光院から経木をもらってき た。14日の朝、墓へ行つて迎える。 「ごちそう下さい」と声をかけて、 寄り道せずにまっすぐ帰る。14日 の晩には迎え松明を焚く。15日の 朝早く、村はすれの地藏さんへ 送った。今は奥之院へ送る。15日 の晩に送り松明を焚く。高野山に 家を建ててからは、高野山の家で 祀っている。盆には、親のおるも のはトビウオを食べてもいいとい った。親のおらんものは、魚は遠慮 せーという。腰が曲がると、盆や 年忌に魚を食ったからという。	2009年8月 5日・8月14 日・9月9日
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------	-----	------	--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------	-----------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----	----	-----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------

[illegible]

25	高野町林	古家照代 (昭和3年)	先祖・無の横	先祖・無の横 (仏壇)		床の間に弘法大師・不動明王・十三仏の掛け軸を掛ける。その前に2段になった棚を置き、経本を並べる台を置いて経木 (先祖代々・弘法大師・三界万霊) を置く。経木の前に、水向けするための水と葉を置く。棚に茶を置く。棚の両側に果物・菓子・花筒を置く。床の間の前に机を置き、膳 (3)・野菜・果物・ろうそく立・線香立・鉢などを置く。 (調査時の膳はそうめんとナス・キュウリの漬物。花はミソハギ・ユリなど)	お膳は3つ。お大師さんと先祖とサンガイ。	71・72	真言宗。7日までに区長が高野山の遍照光院から経本をもらってくる。13日に墓へ迎えに行く。生野菜を細かく刻んで供える。柿の葉・コイモの葉の上に供える。墓の六地藏さんの前には山のように積んでいる。14日に家で祀る。15日に奥之院へ送る。昔は歩いて行った。花や供え物は川へ流し、経本を奥之院へ持って行った。松明は焚かない。 7月7日には、縁側の隅・炊事場の隅に膳を供えてタナバタサンを祀った。この日は畑へ行ったらあかんという。どこにも行かれへんで、といった。
			新仏	縁側	サンガイサン、ムエンサン		新仏は縁側に屋形をこしらえる。カヤでしていた。昔はお手伝いをしてながらみんなで作った。新仏は迎え火といっって、軒へ提灯を吊るす。道を間違わんように吊るす。昔は縁側の隅にムエンサンを祀った。最近では先祖の祭壇の横へ祀るようになった。別に供えるだけ。		
			無縁仏	縁側の隅→座敷 (先祖の祭壇)		床の間に弘法大師・不動明王・十三仏の掛け軸を掛ける。その前に経本を立てる台 (専用のもの) を立て掛けて経木 (先祖代々・弘法大師・三界万霊) を並べる。経木の前に湯飲みを置き、水と葉を入れて水向け用にする。経木の前にもうぶたを置き、大きな葉を敷いて野菜・果物・菓子を置く。その両側には花筒 (3、竹) を置き、葉を敷いて果物・菓子を置く。もうぶたの横に葉を敷いて果物・菓子を置く。床の間の前に小さな机を置き、ろうそく立・線香立・鉢を置く。 (調査時はまだ膳がなかった。調査時の花はコウヤマキ・ミソハギ・ユリなど)	お盆には十三仏、お大師さん、不動さんの掛け軸を出す。近所の家ではサンガイサンは縁側へ祀る。橋詰さんの家では、縁側にタナバタさんは床さんの横へ祀る。タナバタさんを祀るのは橋詰さんの家だけ。昔、東京のほうから来た関係か。	73	
26	高野町南	橋詰文雄 (昭和3年)・イチ子 (昭和9年)		先祖・無の横	ホトケアサン サンガイサン (無縁仏)				真言宗。8月初めに、役員が高野山の遍照光院から経本をもらってくる。経本は常会で配ったが、今は役員から各家に配る。経本はお大師さん・先祖代々・三界万霊の3枚。新仏がある場合は4枚。14日の朝に迎えた。最近では13日の夕方、松明を焚いて送り火をする。ホトケアサンが残っていたら悪いから出て行ってもらおうという。今は、軒下に提灯を吊るしておく。15日だけ吊るす。
			新仏	座敷 (縁側の横)		葬儀屋の棚を置き、中に経本を入れる。棚の前に2段の祭壇を置く。上の段には大きな葉を敷いて野菜・果物・菓子を置く。下の段には遺影・料理・茶・花筒 (1) を置く。祭壇の前に小さな机を置き、ろうそく立・線香立・鉢を置く。祭壇の両側に灯籠・花筒 (2) を置き、他家からの供え物を並べる。 (調査時の料理はおにぎり・つけもの。祭壇横の花はコウヤマキ・ミソハギ・ユリなど。祭壇上の花はシキミ・コウヤマキなど。) (2010年8月13日に拝見したのは文雄氏を祀った祭壇。)	12日に墓参りをして迎えた。いつもやったら13日。新やなかったら14日の朝のときもある。	74	
									2009年3月27日・2010年8月13日

			縁側	タナバタサン	縁側には机を置き、竹の花筒・野菜・果物などを置く。これはタナバタサンと呼ぶ。 (調査時の花はコウヤマキ・ミソハギ・ユリ。)	オチャトのお茶を、カヤの上へ捨てる。土へばれんのか、何回もかけたらへこむからするのか。	75	
			庭		雨垂れには茅を敷き、そこに茶をかける。	カヤと新の竹で屋形を組む。大谷さんは大工をしていたので、屋形をこしらえた。屋根はカヤで葺く。壁はカヤ。2日もすると、カヤの間がすいてきて、中が丸見えになる。ヒノキの葉で壁をすることで、カヤの壁はあんまりすくので、竹で3方の壁を作ったことがあった。大谷さんの考えで作った。	76	
27	高野町南	大谷富雄 (昭和9年)	新仏		縁側へ台を置いて、経木を置き、花・線香を立てて祀る。1回皿へ供えたら、次もその上へ供えていく。朝昼晩と替えない。上へ載せていく。この経木も奥之院へ持っていく。大谷さんの家では、サンガイバンレイサンをタナバタサンやといって祀っていた。隣の橋詰さんは、大谷さんが子どものころ、縁側へタナバタサンを祀っていた。薬で四角に編んで、網の目のようにしたものを祀っていた。橋詰の分家。	縁側へ台を置いて、経木を置き、花・線香を立てて祀る。1回皿へ供えたら、次もその上へ供えていく。朝昼晩と替えない。上へ載せていく。この経木も奥之院へ持っていく。大谷さんの家では、サンガイバンレイサンをタナバタサンやといって祀っていた。隣の橋詰さんは、大谷さんが子どものころ、縁側へタナバタサンを祀っていた。薬で四角に編んで、網の目のようにしたものを祀っていた。橋詰の分家。		真言宗。7日までに区長が遍照光院から経木をもらってくる。14日に墓へ迎えに行く。新仏だけは13日から参った。今は13日に墓へ参って迎える人が多くなった。15日の朝、奥之院へ送る。経木を月25日持っていく。昔は、モンドリ花・お供えは川へ流した。14日の屋から、南・林が一緒に、新仏の家を拝みに回った。このときに、南無阿弥陀仏を唱えた。
			先祖		オチャトは、木の桶にお茶を入れておき、雨だれのところへ湯気が消えたら捨てた。孫の仕事だった。			真言宗。10日は高野登り。新仏がなくとも盆の用意のために行った。昔は各家から高野山の遍照光院へ経木をもらいに行った。最近では区長がまとめて経木をもらってくる。お大師さん・先祖代々・三界万靈の3枚の経木をくれる。13日から14日に墓へ迎えに行く。14日に家で祀る。14日に僧侶が参る。15日に奥之院へ送る。新仏は10日に迎えて13日に送る。新仏も奥之院へ送る。親のいる人はトビウオを食べてもいいといった。あとの人は精進せんなん。塩のトビウオ。
28	高野町西ヶ峰	尾上洋子 (昭和6年) (調査時には高野山に在住)	新仏	縁側		新仏は縁側に祀る。		2010年6月14日に墓へ迎えに行く。14日に家で祀る。14日に僧侶が参る。15日に奥之院へ送る。新仏は10日に迎えて13日に送る。新仏も奥之院へ送る。親のいる人はトビウオを食べてもいいといった。あとの人は精進せんなん。塩のトビウオ。
			無縁仏	座敷 (先祖の祭壇)	サンガイバンレイ	先祖とお膳を別にして祀った。一段下げて祀る。縁側ではない。		

29	高野町西ヶ峰	西辻恵美子 (昭和3年) の美家 (杖ヶ 藏の西辻平治 氏の妻)	新仏	縁側		杖が数と違って、新仏は外に棚を作って祀った。ヒノキの葉で屋根を葺いて、欄干には青い柿を載せた。新竹で段をこしらえて、中へ位牌を入れた。12日から祀る。14日に坊さんが来てくれる。坊さんは最近来るようになった。		真言宗。寺は遍照光院。背中におんぶして迎えてきた。14日に祀って、15日の朝送る。西が峰では、高野山が近いので、奥之院へ送る。新仏の棚は持っていない。西ヶ峰で、盆の朝、話を聞いた人がいる。こんな朝早くにだれが話すのか、と思った。仏さんが帰る途中で話す声だった。1年に1回しか来ないので、あんばい祀ってくれへんの、で、やけんどさせといたった、と言っていた。お堂は真ん中にある。お堂の東に10軒ほどあった。そのへんの家が焼けた。仏さんは目に見えへんけど、1日だけやから祀らなあかん、といった。	2009 年 8 月 13 日
			無縁仏	縁側					
30	高野町高野山	崎山	新仏	土間		新仏は家の中には入らない。土間で祀る。棚は大工さんに頼んで作ってもらった。提灯は、新仏のお供えとしてもらった。11日から出している。	77	真言宗。13日に寺から経木をもらい、墓へ迎えに行く。14日に家で祀る。14日の夜に奥之院へ送る。新仏は11日に祀り、13日に送る。	2009 年 8 月 13 日
			無縁仏	玄関	サンガイサン				
31	高野町高野山	中谷	新仏	玄関先			78		2009 年 8 月 13 日
32	高野町高野山	倉谷俊夫	新仏	玄関先		竹を4本立てて、上部に屋根を設置する。屋根の壁と屋根はヒノキの葉で葺く。屋根の中には新仏の経木・野菜・灯明(電気)・線香立・鉦などを置く。棚にははしごを掛ける。 竹を4本立てて、中ほどに屋根を設置する。屋根の壁と屋根はヒノキの葉で葺き、前にははしごをかける。屋根の部分には花筒と同じような形で足を開いた竹を置き、竹の上にはヒノキの葉を置く。竹の先端にはヒノキの葉を挿す。屋根部分の前面には、花筒(2、竹)・膳・線香立・鉦などを置く。 (調査時の花はコウヤヤキ・菊・蓮など。調査時に新仏の棚の製作にかかわったのは、西郷(神谷)の崎山忠二氏などであった。)	79～ 106	2010 年 8 月 10 日(長岡 弘樹氏調査)	

33	高野町大滝	中谷至告 (昭和17年)	先祖・無縁仏	仏壇の前 (床の間の横)	ホトケサン カキボトケ (無縁仏)	机を2つ置いて白い布を掛けて祭壇にする。上の段には果物・菓子などを置く。下の段には経木 (先祖代々・50回忌までの仏・弘法大師・三界万霊) を並べて立て掛ける。下の段にはほかに野菜・果物・花筒・ろうそく立・線香立・鉾なども置く。祭壇の前に膳(3)を置く。膳の料理に箸を十字などにして立てる。祭壇の両側に灯籠も置く。なお、縁側にはやかんを置く。(調査時の膳はそうめん・汁物・おかずの3品。真ん中の膳では箸を10本立て、両側の膳では箸2本を十字にして立てる。調査時はそうめんに突き刺して立てていた。花はコウヤマキ・シキミ・菊。)	無縁仏は先祖と一緒に祀っている。昔からそうしている。家で取れた野菜、果物を7種類お供えする。とうもろこし・ナス・ピーマン・サツマイモ・柿・トマト・ナツキンを供えている。山の恵み、畑の恵みすべてを供える。 花は色花とシキミとコウヤマキ。コウヤマキは1週間でもつ。シキミは10日もしたら葉が落ちる。14日の朝はそうめん、昼は炊きもち、夜はおはぎ。真ん中のお膳は、カキボトケ用。大盛りの食事を供える。両側には普通のホトケサン。カキボトケ用の箸は何本と決まっていらない。偶数にする。大勢のホトケサンが食べられるようにということ。ススキのじくで作る。オミナエシのじくを使う家もある。何もなしとき、新竹を割って箸にする。花筒は新竹で作る。新竹は腐るので、来年また新しいものを作る。仏さんはすぐに腐るものを使って、再々供養してもらいたいという。長持ちするのは嫌う。(西喜好氏の語りも含む。)	107・108	真言宗。10日過ぎると、各家から高野山の金剛三昧院に経木をもらいに行く。14日の早朝、墓から迎える。14日に家で祀る。14日に僧侶が檀家参り。15日の早朝、墓へ送る。新仏は13日に迎えて、14日に送る。昔から迎え火、送り火は焚かない。
				縁側の外	坊さんの橋	縁側の外には、ススキを束ねた「坊さんの橋」を置く。	ホトケサンはこれをつたって家の中に入る。横に練炭を置き、お茶を1時間おきに入れ替える。	109	
34	高野町大滝	西(西喜好(昭和3年)の本家)	先祖	仏壇の前・床の間の前		仏壇に水を入れた器を置き、中に経木 (先祖代々・50年以内の仏) を置く。仏壇には大きな葉を敷いて野菜・果物を載せる。茶・菓子・花筒なども置く。仏壇の前に机を置き、果物・菓子・ろうそく立・線香立・鉾などを置く。前に膳 (膳は2つ、料理は4組) を置く。床の間には四国88所の掛軸を掛ける。(調査時の膳はそうめん。花はコウヤマキ・シキミ・菊。)	110	真言宗。金剛三昧院に経木をもらう。14日の早朝、墓から迎える。ホトケサンのいる間は夜も閉めたらあかんという。ホトケサンを迎えたら蚊も殺すなという。14日に家で祀る。14日に僧侶が檀家参り。15日の早朝、墓へ送る。経木は墓に捨てる。新仏は13日に迎えて、14日に送る。	
			新仏	縁側		新仏は縁側に祀る。旧仏と分けて祀る。			
			無縁仏	縁側	台の上に、経木 (三界万霊)・料理・茶・野菜・果物・菓子・箸立 (竹) などとを置く。横に花筒・ろうそく立・線香立・やかんを置く。(調査時の膳はそうめん。花はユリなどの色花。)	先祖以外の霊。おばあさんから、ムエンサンは、行き倒れになったり、ようお祀りしてもらわんホトケサンを祀っていると教えてもらった。先祖と一緒に墓に送る。	111	2009年3月28日・8月14日・2010年9月9日	

					雨だれ落ちを三途の川と見立てて、橋を掛けてお迎えする。ホトケサシをお迎えしてきて、家へ招き入れる橋。橋にお茶をかける。ホトケサシは三途の川を渡って帰ってくる。ホトケサシのいる間は夜も開めたらあかんという。		
		緑側の外	橋	ススキで作る。橋は緑側の正面におく。	112		
		先祖		仏壇の前に机を並べて白い布を掛け、4段の祭壇にする。一番上の段には経木（先祖代々・50回忌以内の仏・弘法大師）を立て掛ける。ほかに果物を置く。次の段には果物・菓子置く。次の段には大きな葉を敷いて野菜を載せ、果物・菓子も置く。一番下の段にはろうそく立・線香立・鉦などを置く。祭壇の両側には花筒・灯籠を置く。 （調査時の膳は白粥など5品。花はコウヤマキ・オミナエシ・ミソハギ・ホウズキなど。）	113		
35	高野町大滝	辻本	新仏	玄関に業者から買った屋形を置く。屋形の中に経木を置き、はしごをかける。前に台を置いて、膳・茶・野菜・果物・菓子・ろうそく立・線香立・鉦などを置く。屋形の両側には花筒を置き、周囲に果物などを置く。 （調査時の花は先祖の祭壇と同じ。）	114	新仏の棚は売っているものを買った。	2009 年 8 月 14 日
			緑側の外	緑側の外には、ススキを束ねたものを置く。	115	ここに茶をかける。	
			無縁仏 庭	庭に盆を置き、盆の背後に板を置いて経木（三界万霊）を立て掛ける。盆の上には野菜・花筒・ろうそく立・線香立などを載せる。 （調査時の花はコウヤマキ・シキミ・菊。）	116	外で祀る。	
36	高野町大滝	新家	先祖	仏壇の前に机を並べて白い布を掛け、祭壇にする。一番上の段には台（専用か）を置いて経木（先祖代々・50回忌以内の仏・弘法大師）を立て掛ける。ほかに果物・菓子置く。真ん中の段には果物・菓子・茶などを置く。下の段にはろうそく立・線香立・鉦などを置く。祭壇の前に膳（2）を置く。両側に灯籠を置く。周囲には花筒・果物などを置く。 （調査時の膳はご飯・汁物・煮物・おひたし・豆の5品。花はコウヤマキ・オミナエシ・キキョウ・ユリなど。）	117		
			新仏	業者から買った屋形を緑側に置く。はしごをかけている。屋形の前に経木を置き、膳・野菜・果物・花筒などを置く。 （調査時の花はコウヤマキ・オミナエシ・キキョウ・ユリ・ホウズキなど。）	118	新仏がないときは、縁でサンガイサシを祀る。	2009 年 8 月 14 日

	無縁仏	縁側	サンガイサン	(この年は、新仏を縁側で祀っていたため、無縁仏は祀っていないかった。)				
		縁側の外		縁側の外には、ススキを束ねたものを置く。ここに茶をかける。	118			
	先祖	仏壇		仏壇の前には2段の祭壇を設置する。上の段には水を入れた器に経木(先祖代々・50年以内の仏・三界万霊)を置く。ほかには膳・茶・菓子・花筒などを置く。膳には箸を十字にして立てる。下の段にはろうそく立・線香立・鉦などを置く。祭壇の両側には灯籠・花筒などを置く。飯・煮物。横にも枝豆などを置く。花はコウヤマキ・キキョウ・菊。)	119			真言宗。10日ごろ、区長が高野山の高室院から経木をもらってくる。13日から祀る。14日の夕方、墓へ送る。今までは15日の朝早く持って行った。
37	高野町相ノ浦	久保千代子		竹を立て、花を挿す。横にコソテナを置き、供え物を載せる。経木は先祖の経木と一緒に座敷で水を入れた皿に入れる。	120			
	無縁仏	庭・座敷	ガキサン	(調査時の料理はそうめん。花はコウヤマキ・菊。)				
				庭に竹を1本立てて花を挿す。下に葉を敷いて料理を載せる。				
38	高野町相ノ浦	久保氏の近所の家		(調査時の料理はご飯・そうめんなど3品。花はコウヤマキ・オミナエシ・キキョウ・菊・ホウズキ。)	121			2008年8月14日
		縁側の外		カヤを束ねたものを置く。				
	先祖							
		縁側の外		縁側の外には、ススキを束にしたものを置く。ここに茶をかける。	122			
39	高野町相ノ浦	保井国一(昭和2年)		竹を立て、花を挿す。竹の前にはろうそく立・線香立を置き、大きな葉を敷いて飯・煮物・おはぎなどを載せる。	123			2009年8月14日
	無縁仏	庭		(調査時の花はコウヤマキ・オミナエシ・菊など。)				
	先祖	床の間(仏壇の横)		床の間に四国88所と西国33所の掛け軸を掛け、経木(先祖代々・50年以内の仏・三界万霊)・弘法大師の絵を立てかけ、花筒を置く。机の上に茶を置いて白い布を掛ける。机の上には野菜・果物・菓子を盆に載せて置く。ほかには茶なども置く。机の前には、膳(3)を置く。その前に台を置いて、線香立・鉦を置く。	124・125			真言宗。10日ごろ、区長が高野山の高室院から経木をもらってくる。13日に墓へ迎えに行く。14日に家で祀る。15日の朝、墓へ送る。最近では、朝早くから行くのが大変なので、14日の日暮れに墓へ送る人が多くなった。墓から迎えて、墓へ送る。
40	高野町相ノ浦	前田三恵子		(調査時の膳はおはぎ・煮物・酢の物?・茶。おはぎに箸を十字にして立てる。花は仏壇にはコウヤマキ、祭壇にはキキョウ・ユリ・菊・蓮など。)				2009年8月14日
	新仏			新仏は高野山のように外では祀らない。先祖と同じところで祀る。				
		縁側の外	橋	縁側の外に、ススキを束にしたものを置く。	126			

		無縁仏	庭	ムエンサン	竹を立て、花を挿す。竹筒の前の地面に供え物を置く。経木は先祖と一緒に家の中へ祀る。 (調査時の花はコウヤヤスキ・ケイトウなど。)	先祖と同じ日に祀る。送るのも同じ。だれも祀ってくれない人はいない。仏を祀る。丁寧な家ではお膳をいっしょにしている。塔婆は先祖と一緒に並べている。 の塔婆は先祖と一緒に並べている。	127		
41	高野町相ノ浦 (昭和4年)	先祖	仏壇の前		仏壇の前に机を置き、白い布を掛け る。水を入れた器に経木を置く。机の 上には野菜・果物を盆に載せて置く。 そのほか、茶・団子・菓子などを置 く。机の前に台を置き、ろうそく立・ 線香立・鉦を置く。机の両側には花筒 (竹)を立てる。 (調査時は団子を供えていた。仏壇の 花はコウヤヤスキ。祭壇横の花はコウヤ ヤスキ・菊・ホウズキなど。)	迎えてきたときは、オカイサン (茶粥)を炊く。朝はそうめん・大 根のおひたし、昼はおかずをいっ しょに作る。煮物は数が多いので大 変。中盛は豆さん。酢のもの・味噌 汁・つけもん・ご飯を供える。 おやつには団子。15日の朝は早く 送るから供え物はしない。盆は正 月より大変。正月にはいろいろ炊 かない。	128	真言宗、区長が高野山の高室院から 経木をもらってきている。13日 の夕方、区長のところに経木をもら いに行つて迎える。墓には行か ない。14日に家で祀る。15日の 早朝に墓へ送る。今は14日の夕方 に送る。	2009 年 8 月 14 日
		縁側の外	仏さんの出入 りする橋	縁側の外にススキを束にしたものを置 いている。	仏さんの出入りする橋といつてい る。ここに茶をかける。	129			
		無縁仏	庭	ムエンサン、 サンガイサン	竹を立て、花を挿す。前に経木(三界 万霊)を置く。経木の上に台を置き、 団子・箸を置く。大きな葉を敷いて、 野菜などを載せる。 (調査時は団子を供えていた。調査時 の花は菊・ホウズキなど。)		130		
42	高野町相ノ浦	堀悦三	先祖・無 縁仏 仏壇の前		仏壇の前に机を出し、皿に経木(先祖 代々・50回忌以内の仏・三界万霊) を並べる。経木の上に葉を敷いて、ナ スを載せる。机にはほかに、茶・野 菜・果物・菓子・ろうそく立・線香 立・鉦などを置く。机の前に膳(1) を置く。机の両側には花筒・灯籠など を置く。縁側にやかんを置く。 (調査時の膳は飯・汁物・煮物など5 品。花はミソハギ・キキョウ・ユリ・ ケイトウ・蓮など。)		131		2009 年 8 月 14 日
43	高野町上湯川	西浦孝 (大正 13年)	先祖 床の間・仏壇 の前		床の間の前に弘法大師・不動明王・十 三仏の掛軸を掛ける。床の間の前から 仏壇の前にかけて机を2つ並べて白い 布を敷く。仏壇の前には経木(先祖 代々・50回忌までの仏)を入れた盆 を立て掛ける。床の間の前に置いた花 筒(花瓶)には弘法大師の経木と三界 万霊の経木をひとつずつくくりつけ る。そのほか、祭壇の上には、膳替 える。オチャトという。草薙き (1)・野菜・果物・菓子・茶・箸入 れ(竹)などを置く。膳のそうめんに 箸を十字にして立てる。祭壇の前の 机にはろうそく立・線香立・鉦など を置く。 (調査時の膳は、そうめん・おはぎ・ 汁物・おひたしの4品。花はコウヤ ヤスキ・シキミ・オミナエジ・カル カヤ・ユリ・菊・ホウズキ。)	今できた野菜・柿・栗などを供え る。おはぎと柏餅を作る。箸は新 竹で作る。かつては、仏の数だけ お膳をお供えた。最近では1人前 だけ供える。1日にお茶を何回と する。そのほか、祭壇の上には、膳 替える。オチャトという。草薙き (1)・野菜・果物・菓子・茶・箸入 れ(竹)などを置く。膳のそうめんに 箸を十字にして立てる。祭壇の前の 机にはろうそく立・線香立・鉦など を置く。 (調査時の膳は、そうめん・おはぎ・ 汁物・おひたしの4品。花はコウヤ ヤスキ・シキミ・オミナエジ・カル カヤ・ユリ・菊・ホウズキ。)	132・ 133	真言宗。7日までに区長が高野山 の寺から経木をもらってくる。区 長が各家へ経木を配る。7日前後 に墓掃除。かつては迎えはなかつ て迎える。14日に家で祀る。14 日の夜に松明を焚く家もあった。 15日の早朝に送る。	2009 年 8 月 14 日

									新仏は縁へ祀っていた。昔から屋形はしない。屋形は高野山上だけ。それに見習おうとする場合もある。子どものころにはなかった。縁で別に祀った。小さいテールか何か置いて、ちよっと簡単に祀る。写真はなかった。			
		新仏	縁側									
		無縁仏	縁 →座敷（先祖の祭壇の横）	サンガイバン レイサン、ム エンサン	先祖の祭壇の横に、経木（三界万霊）・供え物・花筒などを置く。先祖の膳とは別に、弘法大師の経木と三界万霊の経木の間に膳を1つ置く（調査時の膳、花は先祖の祭壇と同じ。）	床の間の前に弘法大師・不動明王・十三仏の掛軸を掛ける。床の間の前に机を置いて白い布を敷く。机の上に経木（先祖代々・50回忌までの仏・弘法大師）を入れた盆を立て掛ける。そのほか、祭壇の上には、膳（1）・野菜・果物・菓子・茶・箸入れ（竹）などを置く。膳のおはぎに箸を十字にして立てる。祭壇の前の机にはろうそく立・線香立・鉦などを置く。祭壇の両側には花筒（花瓶）を置く。 （調査時の膳は、そうめん・おはぎ・柿の葉寿司・豆・豆腐の5品。花はコナヤマキ・シキミ・オミナエジ・ミンハギ・カルカヤ・菊・ユリなど。）	14日の朝、迎えに行くというそうめん。屋はおはぎと寿司。夕飯にオカイサン（茶粥）、ぜんまい、タケノコ。送るとき、柏餅のあんこが入らんじん餅をお弁当にもたす。ゆででないそうめんの束をつける。仏さんがそうめんを柏餅を背負うて帰るという。	132				
44	高野町上湯川	西岡憲三							真言宗。14日に祀り、15日の早朝に送る。	2009年8月14日		
		無縁仏	座敷（先祖の祭壇の横）									
		無縁仏	縁側	サンガイサン	先祖の祭壇横の花筒の横にもうひとつ花筒（竹）を立てる。この花筒に経木（三界万霊）をくくりつける。経木をくくった花筒の前に台を置き、膳・野菜・果物・菓子などを置く。 （調査時の膳、花はオミナエジ・ミンハギ・菊など。）			134				
		先祖	仏壇の前（床の間の横）		仏壇の前に机を置いてもうぶたを置く。仏壇にも花筒（2、花瓶）を置く。もうぶたの中に大きな葉を敷いて、果物・花筒（花瓶）・ろうそく立などを置く。もうぶたの前には茶（3）・線香立・鉦などを置く。机の前に膳（2）を置く。 （調査時の膳はご飯・汁物・煮物の物・豆の5品。仏壇・祭壇ともに花はコナヤマキと色花。）			136				
45	高野町下湯川	田中幸一			縁側にもうぶたを置いて大きな葉を敷き、果物・菓子・花筒（花瓶）・ろうそく立・線香立などを置く。もうぶたの前に膳（1）・茶（湯飲みとポット）を置く。 （調査時の膳、花は先祖の祭壇と同じ。）		もうぶたの上に祀る。	137			真言宗。13日の夕方までに墓参りする。14日に家で祀る。15日の朝に谷へ送る。 2010年8月14日（長岡弘樹氏調査）・2010年9月10日	

46	高野町下湯川	安井精一（大正13年）	先祖						真言宗。経木は高野山の宝亀院からもたらきて、12日の晩に上の寺で配った。これが迎えになるので12日の晩から祀った。15日の朝、経木・花・供え物を川へ流した。新仏の家へ、カイト（垣内）の人が寄って拜む。12日の昼から拜む。念仏を唱えていた。	2010年12月9日
			新仏	縁の隅						
			無縁仏	縁側	サンガイバン レイサン	新仏はエソタ（縁）の隅へ祀った。大きな桐の葉の上に祀った。花、果物を供えた。写真はなかった。棚はこしらえなかった。子どものころには祀った。もろぶたの中へ祀った。お供えは先祖と一諸。				
47	高野町下湯川	東浦由實	先祖	仏壇の前（床の間の横）		もろぶたを置いて、その中に果物・花筒（竹）などを置く。前に膳（2）を置く。仏壇にも花筒（3、花瓶）を置く。（調査時の料理は4組。ご飯・煮物の2品。仏壇の花はコウヤマキと色花。祭壇の花はコウヤマキ・オミナエシ・ミソハギ・菊など。）			138	2010年8月14日（長岡弘樹氏調査）
			新仏	床の間の前		床の間の前に机を置き、白い布を掛ける。その上に、遺影・位牌を置く。料理・果物・茶・ビール・花筒（1、花瓶）・ろうそく立などを置く。祭壇と同じで、少し色花が多め。）				
			無縁仏	縁側の隅		もろぶたを置いて、その中に野菜・果物・菓子・茶・花筒（1、竹）・線香立などを置く。前に膳（1）を置く。（調査時の料理・花は先祖の祭壇と同じ。）				
48	高野町花坂	上田央夫（大正11年）	先祖	床の間	ホトケサン	床の間に四国88所の掛軸を掛け、もろぶたを置いて、大きな葉を敷いて、野菜・果物などを入れる。もろぶたの間の前には花筒（竹）を立てる。床の間の前に机を出して祭壇にし、白い布をはきか餅。ホトケサンは甘いもん掛ける。上の段には位牌を並べ、果物を置く。下の段には、水を入れた器に経木（先祖代々・弘法大師など）を入れて置く。下の段にはほかに、果物・菓子・茶・ろうそく立・線香立（竹）などを置く。祭壇の前に膳（2）と鉾を置く。（調査時の膳はご飯・汁物・煮物・豆など6品。花はコウヤマキ・シキミ・オミナエシ・キキョウ・菊・ホウズキなど。）	13日、仏を迎えてきてからの昼飯はオチツキそうめん。夕食はみんなで食べるもの。14日の朝は同じようなもの。昼は本膳。屋からおかが好きやという。夕ご飯は豆オカイサン（茶粥）。ソラマメを炒って入れる。今はしていない。ご飯を供えて送る。箸はミソハギなどの花の軸を使った。オミナエシ・カルカヤなども箸にする。食事1回ごとに替える。モンドリという。花筒のことを作る。昔はキキョウ、カルカヤ、オミナエシなどを山へ採りに行った。	140	真言宗。七夕。仏祭りの始まりの日やという。旧暦7月7日から仏祭りをするのか本当やった。7日に墓掃除。13日に高野山の無量光院から花坂の寺へ経木を持ってくる。各家から寺へ経木をもらいに行つて迎える。14日に家で祀る。14日に檀家回り。今は13日から回る。14日の夜に送る。平成になるまでは川へ流した。新仏を祀る家は、7日から自分で高野山の寺まで経木をもらいに行つてくる。新仏は7日から祀る。昔から火を焚くことはない。	2008年8月14日
			新仏			花坂では新仏を先祖代々の隣へ並べて祀る。				
			無縁仏	玄関	サンガイサン	玄関には、もろぶたを置いて、中に大きな葉を敷き、野菜・果物・菓子などを入れる。隣には膳を置く。（調査時の膳は先祖の祭壇と同じ。）	サンガイサンも先祖と一緒に川へ流した。	141		
			無縁仏	玄関先		玄関先に竹を立て、花を挿し、経木（三界万霊）をくくりつける。竹の下にはろうそく立・線香立（竹）を置く。（調査時の花は先祖の祭壇と同じ。）		142		

49	高野町花坂	上田氏の近所の家	無縁仏	軒下		竹を立て、花を挿す。 (調査時の花はコウヤマキ・シキミ・オミナエシ。)	143		2008 年 8 月 14 日
50	高野町花坂	掛正和 (昭和 26 年)	無縁仏	外		ベンチにもろぶたを置く。その中に器を置いて経木 (三界万霊) とシキミを入れる。横に野菜・果物を置く。もろぶたの横にはろうそく立 (竹)・線香立 (竹) を置く。ベンチの横に大きな竹を立て、花を挿す。 (調査時の花はコウヤマキ・シキミ・オミナエシ・ミソハギ・菊・ホウズキなど。)	144		2008 年 8 月 14 日
51	高野町花坂	掛氏の近所の家	先祖	床の間		床の間に祭壇を作る。	145		2008 年 8 月 14 日
			無縁仏	縁側		縁側に盆を置き、野菜・果物を載せる。周囲にも茶・果物などを置く。座敷側に膳 (1)・茶 (9) を置く。 (調査時の膳は柿の葉寿司・汁物・煮物など 5 品。)			
			無縁仏	外		外に竹を立て、花を挿し、経木 (三界万霊) をくくりつける。縁側には、野菜・果物・お茶・お膳を並べる。 (調査時の花はコウヤマキ・シキミ・菊など。)	146		
52	高野町花坂	掛氏の近所の家	無縁仏	縁側の外		縁側の外に机を置き、白い布を掛ける。花筒を置いて経木をくくりつける。膳 (1)・野菜・果物・茶などを置く。	147		2008 年 8 月 14 日
53	高野町花坂	木瀬	先祖	床の間		床の間に弘法大師の掛け軸を掛け、前に机を並べて白い布をかけ、祭壇にする。上の段には箱を置き、中に経木 (先祖代々・50 年以内の仏) を立て掛ける。大きな葉を敷いて、野菜・果物などを置く。両側には花筒を置く。果物も置く。下の段には膳 (3)・茶・野菜・菓子・ろうそく立・線香立・鉦などを置く。 (調査時の膳はかぼちやの煮物・おはぎなど 3 品。花はコウヤマキ・シキミ・オミナエシ・キキョウ・菊など。)	148		2008 年 8 月 14 日
			新仏	床の間の横		祭壇を設け、最上段に皿を置いて経木 (新仏) を立てる。隣に遺影を置く。真ん中の段には盆を置き、野菜・果物を載せる。両側に花筒を置く。下の段には膳 (1)・菓子を置く。祭壇の前に台を置き、茶・ろうそく立・線香立・鉦を置く。祭壇の両側には灯籠・追花を置き、周囲には遺影・他家からの供え物などを置く。 (調査時の膳は先祖の祭壇と同じ。)			

						仏壇の前に2段重ねでもろぶたを置き、経木（先祖代々・50回忌までの仏）を立て掛け、菓子・花筒（竹）などを置く。その前にもろぶたを置き、中に野菜・果物などを置く。その前には膳（4）を置くき、横に箸立（竹）を置く。膳の前には茶（10）・茶の桶（2、木）を置き、ろうそく立・線香立（竹）・鉦なども置く。床の間には経木（先祖代々・50回忌までの仏）を立て掛け、野菜を載せた盆を置く。横に花筒（竹）を置く。床の間の前に小さな机を置き、ご飯・箸・茶・ろうそく立・線香立・鉦を置く。（調査時の膳はご飯・煮物・汁物・豆・酢の物の5品。花はコウヤブキ・シキミ・オミナエシ・ミソハギ・ユリなど。）	14日の朝はボタモチ、昼は写真の膳、晩はそうめんと梅干し、ヤセコ（夜食）はお茶漬け。餅を13個、14日の夜に供える。帰るときのお土産という。竹の箸と、ミソハギの箸を使う。ミソハギの箸はそうめんを食べるときに使う。カルカヤ、オミナエシなどを川から採ってきていた。経木は2枚ある（最近、先祖代々の経木は2枚あるという。）	149～153	真言宗。13日に花坂の寺へ経木をもらいに行く。14日に祀る。15日に川へ送った。今は流さない。	2008年8月14日
54	高野町花坂	田和新吉（昭和23年）	先祖	仏壇の前・床の間		竹を4本立てて棚にする。棚の上に経木（三界万霊）・料理・野菜・果物などを置き、4本の竹の先に花を挿す。棚の前に茶を置く。（調査時の料理はご飯・汁物。花は先祖の祭壇と同じ。）	サンガイサンは花坂では竹1本で立てている。4本で立てるのは志賀式。おじいさんが志賀（かつらぎ町）から来ているので、志賀式にやっている。この棚は面倒。作るのに2時間ほどかかる。的場さんも同じようなサンガイサンの棚をしている。的場さんところも志賀から来ている。	154・155		
55	高野町東細川	新谷敏捷（昭和9年）	無縁仏	庭		台の上に縦にしたコシテナを置き、その上に傘をかける。コシテナの中には花筒を置き、経木（三界万霊）をくくりつける。コシテナの前には、茶・ろうそく立・線香立・野菜・果物などを置く。（調査時の花はシキミと色花。）		156		2010年8月14日
56	高野町東細川	新谷登	先祖	床の間		床の間に弘法大師・不動明王・十三仏・西国33所などの掛け軸を掛ける。床の間に花筒（花瓶）を3つ置き、それぞれに経木（先祖代々・四辻明神・弘法大師）をくくりつける。それぞれの花筒の前に大きな葉を敷き、野菜・果物を載せる。さらにその前にそれぞれ膳（合計3）・ろうそく立・線香立を置く。膳の間に茶（11）を置く。床の間の前に鉦を置く。（調査時の膳はおはぎか。花はコウヤブキ・シキミ・ミソハギ・菊・ホウズキなど。）		157		2009年8月14日（長岡弘樹氏調査）
			無縁仏	縁側の外		机を置いて、上に花筒（1、花瓶）を置き、経木（三界万霊）をくくりつける。大きな葉を敷いて、野菜・果物などを載せる。前に膳・ろうそく立・線香立などを置く。（調査時の膳と花は先祖と同じ。）		158		

57	高野町西細川	井戸坂昌夫 (昭和5年)	先祖		仏壇の前に机を置き、バシヨウの葉を敷いて花筒を3つ置く。3つの花筒の前面にそれぞれ、先祖代々・弘法大師・四柱明神の経木をくくりつける。バシヨウの葉の上には、野菜・果物・菓子・ろうそく立・線香立を載せる。机の上にはほかに茶(3)・鉢も載せる。 (調査時の花はコウヤマキ・シキミ・オミナエシ・菊など。)	159・160	供え物は、サトイモの葉を3枚ほど敷いて載せた。サトイモか桐の葉を敷いた。今はバシヨウの葉を敷いている。ケンズイ(おやつ)として、そうめんと餅を供える。オチャトは75回するといった。豆で数取りをした。子どもにさせた。バケツへお茶をためた。	真言宗。7日になると墓参りをする。高野山の通照尊院から区長が経木をもらってくる。昔は10日に奥之院に仏迎えに行った。13日の夜から祀り、14日の夜に川へ送った。今は経木は焼く。14日の昼までに檀家参り。	2010年8月14日
			無縁仏 軒先	サンガイバン レイ	台の上に縦にしたコンテナを置き、その中にバシヨウの葉を敷いて、花筒を置き、経木(三界万霊)をくくりつける。バシヨウの葉の上には野菜・果物も置く。コンテナの前には茶・菓子・ろうそく立・線香立を置く。 (調査時の花は先祖の祭壇と同じ。)	161	昔は箱か籠で祀った。なんでもなんということはない(決まったものではない)。籠があったら籠にも祀った。横向けて中へ祀った。今はどこでもコンテナに祀っている。軒先へ祀る。無縁仏と聞いている。流すのは一緒に流す。ござを巻くのは知らない。		
58	高野町西細川	清水寛の母	先祖	仏壇の前(床の間の横)		162・163・164			2010年8月14日
			無縁仏 軒	サンガイバン レイサン	軒下にコンテナを縦にして吊るし、その中に花筒を置き、経木(三界万霊)をくくりつける。下には大きな葉を敷く。菓の上に料理(ご飯・ナンキツ)・野菜・茶・ろうそく立・線香立などを置く。 (調査時の料理はご飯とかぼちゃの煮物。花はコウヤマキ・シキミ。)	165			
59	高野町西郷 (神谷)	崎山忠二(昭和8年)	先祖	床の間		166		真言宗。13日に墓へ迎えに行き、夜に迎え火を焚く。14日に高野山の光台院から僧侶が参る。このときに経木をもらう。14日に祀り、キヤクビを焚く。15日に墓へ送る。夜に送り火を焚く。墓へ経木を持って行く。	2010年8月14日

			無縁仏	廊下	サンガイサン	段ボール箱を伏せて台にし、その上に盆を置き、野菜・果物・茶・菓子・花筒(竹)・ろうそく立・練香立などを載せる。前に伏せた段ボール箱を置き、その上にご飯・茶を置く。その前に膳を置く。 (調査時の膳・花は先祖の祭壇と同じ。)	崎山さんの家では、昔から廊下で祀っている。外で祀るところもある。隅田(橋本市)の奥の山内(橋本市)では、箕の中へ祀る。	167		
			先祖			床の間に四国88所の掛軸を掛け、床の間と床の間の前にかけて机を2つ置いて白い布を掛け、祭壇にする。上の段には位牌を並べ、ご飯・茶・菓子・花筒(竹)などを置く。下の段には盆に大きな葉を敷き、野菜・果物を載せる。下の段にはほかにろうそく立・鉾なども置く。祭壇の前に膳(3つ)を置き、横に茶・やかんを置く。 (調査時の膳はご飯・汁物・煮物・酢の物・豆の5品。花はコウヤマキ・シキミ・ユリ・ホウズキなど。)	昔は5つ膳をした。	168		
60 (神谷)	高野町西郷	岡田里明(昭和4年)	無縁仏	玄関	サンガイサン	台の上に盆を置き、大きな葉を敷いて、その上に野菜・果物・茶・菓子・花筒(竹)・ろうそく立・練香立などを載せる。その前に膳を置く。 (調査時の膳・花は先祖の祭壇と同じ。)		169		2010年8月 14日

61 (尾細)	高野町 西郷 岩坪綾子 (昭和2年)	先祖	仏壇の前		仏壇の前に机を置き、大きな葉を敷いて花筒を2つ置く。仏壇にも花筒(2、花掛)を置く。祭壇の花筒の前面にそれぞれ、先祖代々・弘法大師の経本をくくりつける。葉の上には、料理を載せる。机の前に台を置き、ろうそく立・線香立・瓶を載せる。台の下には替えの箸をおいておく。台の横にはやかん、茶を捨てる鉢を置く。(調査時の料理はそうめん。花はコウヤキ・シキミ・オミナエシ・キキヨウなど。)	盆には仏壇はさわらない。仏壇の前に置いたテールの上に供え物をする。線香はお大師さん・先祖・一番新しい仏さんの順番に3本立てる。昔から5つのお供えをする。14日の朝はそうめん、屋はおかず。今年はずんぎん・ナスビ・ジャガイモ・青コブ・高野豆腐。昔は、ハナフ・ぜんまいなども炊いた。新しい野菜を炊く。盆のものは奇数にする。供え物は桐の葉に敷く。なければサトイモの葉。3時はスライカを切って供える。まんじゅう、キュウリとワカメの酢もみも供える。夜はトリノコモチを供える。これはマリケン粉で固めたもの。ウヤオイの形にする。ホトケノヲという。人指し指と中指で押さえて、形をこしらえる。バツタみたいなきがらがある。その形にする。このごろはしない、15日の朝は、茶粥を炊いて、横に梅干しを供える。	170	真言宗。7日に墓掃除。10日までには河根(九度山町)の日輪寺から拝みに来る。このときに経木をもちょう。経木は、先祖・お大師さん・三界万霊の3枚もちょう。10日に奥之院へ参り、仏を迎える。13日に墓参りをし、夜に迎え火を焚く。14日に祀り、夜に送り火を焚く。15日の早朝に川へ送る。早い方がいい。一番船に乗って流すという。経木・花・供え物を川へ流す。燃やしたりしない。昔は暗闇で行った。線香・ろうそくを立てて拝む。帰ってくるときは振り向かない。とどまるうか、戻るうか、迷ったらあかんからという。	2010年8月14日
(火)	家の前	縁側	無縁仏	サンガイハベシイサン	箕の上に芋の葉を敷き、その上に花筒(竹)を置き、三界万霊の経本をくくりつける。葉の上には野菜・果物・ろうそく立(ジャガイモ)・線香立などを置く。水の入った器にシキビの葉を入れて置く。前には料理と箸を置く。(調査時の料理は先祖の祭壇と同じ。花はコウヤキ・シキミ・オミナエシ・ホウスキなど。)	昔は松明を焚いた。枝を5つ残した竹を立てて、枝のところで松明を焚いた。かがり火のように焚いた。今はその代わりに迎え火としてオガラを焚く。			

62	高野町西郷 (尾細)	竹森喜代子 (昭和 11 年)	先祖	仏壇の前		仏壇の前に机を置き、大きな葉を敷いて花筒（竹）を2つ置く。仏壇にも別に花筒（2、花瓶）がある。2つの花筒の前面にそれぞれ、先祖代々・弘法大師の経本をくくりつける。葉の上には、野菜・果物を載せる。机の上にはほかに、茶（6）・簪・ろうそく立・線香立・鉦を載せる。 (調査時の花はコウヤヤスキ・菊。仏壇の花はコウヤヤスキのみ。)	172		2010 年 8 月 14 日
			無縁仏	縁側		コンテナを縦にし、その中に大きな葉を敷いて野菜・果物などを置く。コンテナの横に花筒（竹）を立て、三界万霊の経本をくくりつける。コンテナの前には茶・ろうそく立・線香立・鉦・やかんを置く。 (調査時の花は先祖の祭壇と同じ。)	173		
63	高野町西郷 (作水)	紙谷良子（大 正 15 年）	先祖	仏壇の前	ホトケサン	仏壇の前に机を出し、大きな葉を敷く。葉の上に花筒（竹）を立て、経木（先祖代々）を立て掛ける。葉の上にはほかに果物・菓子なども置く。周囲には（5）・果物・菓子・ろうそく立（竹）・線香立（竹）・鉦などを置く。経本を立てた机の前にもうひとつ机を置く。その上には簪を置く。(調査時には膳はなかった。花はコウヤヤスキ・ミソハギ・菊・ホウズキなど。)	174		真言宗。経本は河根（九度山町）の寺からもらう。新仏のときは 10 日に奥之院へ参り、仏を迎える。14 日（長岡 13 日に迎え火を焚く。14 日に家弘樹氏調で祀る。15 日に送り火を焚く。経査）・2011 年木などは川へ流した。16 日ぐらい 2 月 23 日に奥之院へ送りに行った。
				床の間		床の間に花瓶を置き、その前に経木（弘法大師）を立て掛ける。その前に大きな葉を敷き、野菜・果物などを置く。周辺にろうそく立（竹）・線香立（竹）などを置く。横に盆を置き、茶（1）・簪を載せる。 (調査時の花は先祖の祭壇と同じ。)			
			無縁仏	外→玄関	サンガイサン、ソトボケサン	玄関の下駄箱の上に大きな葉を敷き、花筒（竹）を立て、経木（三界万霊）を立て掛ける。葉の上には野菜・果物・ろうそく立（竹）・線香立（竹）などを置く。横には茶を置く。(調査時の花はコウヤヤスキ・ミソハギ・ユリ・菊・ホウズキなど。)	175	外のホトケサン。ホトケサンと同じように祀る。箱の上へ祀る。だいたい箱の上。よう祀ってない人が、外におって、うちのホトケサンと一緒に祀ったということ。ホトケサンと同じように祀る。	
64	高野町西郷 (作水)	堂本	(火)	家の前		竹の又へ、肥え松の束を 3 束ほど置いて、火をつけた。			2017 年 8 月 14 日
			無縁仏	玄関先	カトボトケ	コンテナを伏せて台にし、その上に箕を置く。箕の上に花筒（花瓶）を置き、経木（三界万霊）を立て掛ける。前に料理・茶・ろうそく立・線香立を置く。 (調査時の料理はそうめん。花はコウヤヤスキ。)	176		

表 2 高野町の盆棚の分類

場所	形態	祭祀対象	高低、覆いなど	地域	表 1 の事例番号	写真
A 墓地・寺院	高燈籠を立てる		高い (簡略化して低いものもある)	東富貴・西富貴・上筒香・中筒香・下筒香		3・4・5
	柿・サトイモの葉の上に供え物		低い	杖ヶ敷・東又・樫原・平原・林・南		8
B 庭・軒先	a 松明を焚く竹を立てる 花筒		高い	東富貴	3	24
	b 松明を焚く竹を立てる		高い	東富貴・西富貴・樫原・西郷	1・4・23・61・63	
	c カヤなどの草を置く		低い	東又・樫原・林・南・大滝・相ノ浦	22・23・25・26・33・34・35・36・38・39・40・41	66・70・76・109・112・115・118・121・122・126・129
	d 花筒	不明		西富貴	7	35
	e 経木 (板に立てかけける)、花筒 (花瓶)、供え物 (台は盆)	無縁仏	低い、隠している	大滝	35	116
	f 竹の花筒、供え物 (台は容器・部材・まな板・フロック・コンテナ)	無縁仏	供え物は低い、花は高い、隠していない	相ノ浦	37・38・39・40	120・121・123・127
	g 竹の花筒、経木 (フロックに立てかけける)、供え物 (台はまな板)	無縁仏	供え物は低い、花は高い、隠していない	相ノ浦	41	130
	h 籠 (船込みの上)、籠の中に経木・供え物、籠の横に花筒、籠の上に帽子	無縁仏	高い、隠している	下筒香	16・18	54・57
	i 籠 (台はラック)、籠の中に経木・供え物、籠の横に花筒、籠の上に傘	無縁仏	高い、隠している	下筒香	17	56
	j 机の上にコンテナ、コンテナの中に花筒・経木、机の上に供え物、コンテナの上に傘	無縁仏	高い、隠している	東細川	55	156
C 軒下・玄関先	k 竹 (4本) の棚、竹の先に花、棚の上に経木・供え物	無縁仏	高い、隠している	花坂	54	154・155
	l 竹の花筒 (供え物は縁側・玄関に置く、もろぶたなどに入れる)	無縁仏	高い、外と中	花坂	48・51	141・142・145・146
	a 竹の花筒、台の上にもろぶた、もろぶたの中に供え物 (台はベンチ)	無縁仏	高い、隠している	花坂	50	144
	b 杭の上に箱、箱の中に経木・供え物	無縁仏	高い、隠す	上筒香	12	46
	c 机の上に経木・花筒・供え物	無縁仏	高い、隠している	花坂、東細川	52・56	147・158
	d 机の上に籠、籠の中に経木、机の上に供え物、軒下に花筒を吊るす	無縁仏	高い、隠す	中筒香	14	51
	e 椅子の上にコンテナ、コンテナの中に経木・花筒・供え物	無縁仏	高い、隠す	西細川	57	161
	f コンテナの上に箕、箕の上に経木・花筒・供え物	無縁仏	高い、隠している	西郷	64	176
	g 籠を吊るす、籠の中に経木・供え物、籠の横に花筒	無縁仏	高い、隠す	上筒香	11・13	45・47
	h 籠を吊るす、籠の中に経木・供え物、籠の横に花筒、籠の上に帽子	無縁仏	高い、隠す	下筒香	19	58

	i	コンテナを吊るす、コンテナの中に経木・花筒・供え物	無縁仏	高い、隠す	西細川	58	165
	j	台の上に経木・供え物（台は桶・箱・コンテナ・椅子・バケツ）、ござで覆う、ござの横に花筒（縁側にも供え物）	無縁仏	高い、隠す、外と中	東富貴、西富貴、上筒香	2・3・6・7・10	20・22・23・31・33・43
	k	台の上に経木・供え物（台はコンテナ）、ござで覆う、花筒は軒下（縁側にも供え物）	無縁仏	高い、隠す、外と中	西富貴	8	37・38
	l	台の上に経木・供え物（台は桶・箱・コンテナ・椅子）、ござで覆う（花筒は縁側、縁側にも供え物）	無縁仏	高い、隠す、外と中	東富貴、西富貴	4・5・9	26・27・29・40・41
	m	竹（4本）の棚	新仏	高い、隠す	高野山	30・31・32	77・78・105・106
	a	もうぶたの上に経木・供え物、横に花筒	無縁仏		東又	22	65
	b	もうぶたの中に経木・花筒・供え物	無縁仏		豊原、下湯川	23・45・47	69・137・139
	c	箕の上に経木・花筒・供え物	無縁仏		西郷	61	171
	d	コンテナの中に供え物、横に花筒・経木	無縁仏		西郷	62	173
	e	台の上に経木・花筒・供え物（台は机）	新仏・無縁仏		新仏：中筒香 無縁仏：杖ヶ敷	14・20	50・62
D 縁側	f	台の上に経木・供え物、横に花筒（台は机など）	新仏・無縁仏		新仏：下筒香 無縁仏：大滝	16・34	53・111
	g	台の上に経木・供え物（台はバケツ）、ござで覆う	無縁仏	高い、隠す	東富貴	1	18
	h	屋形	新仏		大滝	36	118
	a	もうぶたの中に供え物	無縁仏		花坂	48	141
	b	台の上に経木・花筒・供え物（台は箱・盆）	無縁仏		西郷	59・60	167・169
	c	下駄箱の上に経木・花筒・供え物	無縁仏		西郷	63	175
	d	屋形	新仏		大滝	35	114
	a	座敷（縁側のそば）に祭壇	新仏		南	26	74
	b	座敷（床の間の横）に祭壇	新仏		花坂	53	148
	c	床の間に経木・花筒・供え物	先祖など		先祖：東細川 弘法大師？：西郷	56・63	157・174
E 玄関	d	床の間を中心に祭壇、祭壇に位牌、もうぶたの中に経木・花筒・供え物	先祖		杖ヶ敷	20	59・60
	e	床の間を中心に祭壇、もうぶたの中に経木・花筒・供え物	先祖		豊原	23	67・68
	f	床の間を中心に祭壇、もうぶたの中に経木・供え物、祭壇に花筒	先祖		花坂	53	148
	g	床の間を中心に祭壇、床の間に経木・花筒、もうぶたの中に供え物	先祖		南	26	73
	h	床の間を中心に祭壇、床の間に経木・花筒、もうぶたの上に供え物	先祖		東又	22	63・64
	i	床の間を中心に祭壇、祭壇に位牌・経木・花筒、もうぶたの中に供え物	先祖		花坂	48	140
	j	床の間の前に祭壇、机の上に経木・花筒・供え物（先祖の祭壇と区別）	無縁仏		上湯川	43・44	132・134
	k	床の間を中心に祭壇、祭壇の上に経木・花筒・供え物	先祖・無縁仏など		先祖：相ノ浦 無縁仏：林 対象不明：西富貴	6・25・40	30・71・124
	F	床の間・座敷・仏壇の前					

	l 床の間を中心に祭壇	新仏		西富貴、上筒香、下湯川	9・11・47	39・44・138
	m 床の間を中心に祭壇、祭壇の上に屋形	新仏		東富貴、中筒香	2・14	19・48
	n 床の間を中心に祭壇、祭壇の上に位牌・花筒・供え物	先祖		西郷	59・60	166・168
	o 床の間を中心に祭壇、祭壇の上に位牌・供え物、祭壇の横に花筒	先祖		東富貴	1・3	18・21
	p 仏壇の前を中心に祭壇、もろぶたの中に経木・花筒・供え物	先祖		花坂	54	149
	q 仏壇の前を中心に祭壇、もろぶたの中に花筒・供え物	先祖		下湯川	46・47	136・138
	r 仏壇の前を中心に祭壇、机の上に経木・花筒・供え物	先祖		上筒香・大滝・相ノ浦・上湯川・西細川・西郷	10・33・35・36・37・43・57・58・61・62・63	42・107・113・117・119・132・159・160・162・163・170・172・174
	s 仏壇の前を中心に祭壇、机の上に経木・供え物、祭壇の横に花筒	先祖		相ノ浦	41・42	128・131
	t 仏壇の前に祭壇、仏壇に位牌・経木	先祖		東富貴・西富貴・中筒香・下筒香・大滝	2・4・5・6・7・8・9・14・16・17・34	19・25・28・30・32・36・39・49・52・55・110



写真1 下筒香の墓地（2010年8月14日撮影）



写真2 花坂(矢立)の墓地(2011年9月13日撮影)



写真3 上筒香の高灯籠（2010年8月13日撮影）



写真4 中筒香の高灯籠（2008年8月15日撮影）



写真5 下筒香の高灯籠（2010年8月14日撮影）



写真6 仏迎え（大滝）（2009年8月14日撮影）



写真7 仏迎え（林・南）（2010年8月13日撮影）



写真8 墓地の六地藏に供えられた野菜（林・南）
（2010年8月13日撮影）



写真9 迎え火の跡（表1の59、西郷（神谷））（2010年8月14日撮影）



写真10 延命寺で新仏を拝む（2008年8月14日撮影）



写真11 川へ送る（中筒香）（2008年8月15日撮影）



写真12 川へ送る（中筒香）（2008年8月15日撮影）



写真 13 川へ送る(中筒香)(2008年8月15日撮影)



写真 14 延命寺の詣り墓へ送る(中筒香)(2008年8月15日撮影)



写真 15 奥之院に設置された無縁仏の棚(2008年8月15日撮影)



写真 16 西方寺でおこなわれる総回向(2010年8月13日撮影)



写真 17 西方寺に設置された無縁仏の祭壇(2010年8月13日撮影)



写真 18 先祖の祭壇(左)と無縁仏の棚(右)(表1の1、東富貴)(2008年8月14日撮影)



写真 19 先祖（右）・新仏（中央）の祭壇（表 1 の 2、東富貴）（2008 年 8 月 14 日撮影）



写真 20 無縁仏の棚（写真 19 に同じ）



写真 21 先祖の祭壇（表 1 の 3、東富貴）（2010 年 8 月 13 日撮影）



写真 22 無縁仏の棚（写真 21 に同じ）



写真 23 無縁仏の棚（写真 21 に同じ）



写真 24 松明（写真 21 に同じ）



写真 25 先祖の祭壇（表 1 の 4、東富貴）（2010 年 8 月 13 日撮影）



写真 26 无缘仏の棚（写真 25 に同じ）



写真 27 无缘仏の棚（写真 25 に同じ）



写真 28 先祖の祭壇（表 1 の 5、西富貴）（2008 年 8 月 14 日撮影）



写真 29 无缘仏の棚（写真 28 に同じ）



写真 30 先祖の祭壇（表 1 の 6、西富貴）（2008 年 8 月 14 日撮影）



写真 31 無縁仏の棚（写真 30 に同じ）



写真 32 先祖の祭壇（表 1 の 7、西富貴）（2008 年 8 月 14 日撮影）



写真 33 無縁仏の棚（写真 32 に同じ）



写真 34 無縁仏の棚（写真 32 に同じ）



写真 35 花筒（写真 32 に同じ）



写真 36 先祖の祭壇（表 1 の 8、西富貴）（2010 年 8 月 13 日撮影）



写真 37 無縁仏の棚 (写真 36 に同じ)



写真 38 無縁仏の棚 (写真 36 に同じ)



写真 39 先祖 (左)・新仏 (中央) の祭壇 (表 1 の 9、西富貴) (2010 年 8 月 13 日撮影)



写真 40 無縁仏の棚 (写真 39 に同じ)



写真 41 無縁仏の棚 (写真 39 に同じ)



写真 42 先祖の祭壇 (表 1 の 10、上筒香) (2008 年 8 月 14 日撮影)



写真 43 無縁仏の棚（写真 42 に同じ）



写真 44 新仏のお参り（表 1 の 11、上筒香）（2010 年 8 月 14 日撮影）



写真 45 無縁仏の棚（写真 44 に同じ）（2010 年 8 月 13 日撮影）



写真 46 無縁仏の棚（表 1 の 12、上筒香）（2010 年 8 月 14 日撮影）



写真 47 無縁仏の棚（表 1 の 13、上筒香）（2010 年 8 月 14 日撮影）



写真 48 新仏の祭壇（表 1 の 14、中筒香）（2008 年 8 月 14 日撮影）



写真 49 新仏のお参り（奥に先祖の祭壇がみえる、写真 48 に同じ）



写真 50 村の新仏の祭壇（写真 48 に同じ）



写真 51 無縁仏の棚（写真 48 に同じ）



写真 52 先祖の祭壇（表 1 の 16、下筒香）（2008 年 8 月 14 日撮影）



写真 53 村の新仏の祭壇（写真 52 に同じ）



写真 54 無縁仏の棚（写真 52 に同じ）



写真 55 先祖の祭壇（表 1 の 17、下筒香）（2010 年 8 月 14 日撮影）



写真 56 無縁仏の棚（写真 55 に同じ）



写真 57 無縁仏の棚（表 1 の 18、下筒香）（2010 年 8 月 14 日撮影）



写真 58 無縁仏の棚（表 1 の 19、下筒香）（2010 年 8 月 14 日撮影）



写真 59 先祖の祭壇（表 1 の 20、杖ヶ藪）（2009 年 8 月 13 日撮影）



写真 60 先祖の祭壇の膳（写真 59 に同じ）



写真 61 おはぎ (写真 59 に同じ)



写真 62 無縁仏の棚 (写真 59 に同じ)



写真 63 先祖の祭壇 (表 1 の 22、東又) (2010 年 8 月 14 日撮影)



写真 64 先祖の祭壇の膳 (写真 63 に同じ)



写真 65 無縁仏の棚 (写真 63 に同じ)



写真 66 縁側の外に置かれた枯れた花 (写真 63 に同じ)



写真 67 先祖の祭壇（表 1 の 23、檜原）（2009 年 8 月 14 日撮影）



写真 68 先祖の祭壇の膳（写真 67 に同じ）



写真 69 無縁仏の棚（写真 67 に同じ）



写真 70 縁側の外に置かれた茅（写真 67 に同じ）



写真 71 先祖の祭壇（表 1 の 25、林）（2010 年 8 月 13 日撮影）



写真 72 経木（写真 71 に同じ）



写真 73 先祖の祭壇（表 1 の 26、南）（2010 年 8 月 13 日撮影）



写真 74 新仏の祭壇（写真 73 に同じ）



写真 75 タナバタサン（写真 73 に同じ）



写真 76 雨垂れに置かれた茅（写真 73 に同じ）



写真 77 新仏の棚（表 1 の 30、高野山）（2009 年 8 月 13 日撮影）



写真 78 新仏の棚（表 1 の 31、高野山）（2009 年 8 月 13 日撮影）



写真 79 新仏の棚を作る（表 1 の 32、高野山、高野町教育委員会蔵）(2010 年 8 月 10 日撮影)



写真 80 写真 79 に同じ



写真 81 写真 79 に同じ



写真 82 写真 79 に同じ



写真 83 写真 79 に同じ



写真 84 写真 79 に同じ



写真 85 写真 79 に同じ



写真 86 写真 79 に同じ



写真 87 写真 79 に同じ



写真 88 写真 79 に同じ



写真 89 写真 79 に同じ



写真 90 写真 79 に同じ



写真 91 写真 79 に同じ



写真 92 写真 79 に同じ



写真 93 写真 79 に同じ



写真 94 写真 79 に同じ



写真 95 写真 79 に同じ



写真 96 写真 79 に同じ



写真 97 写真 79 に同じ



写真 98 写真 79 に同じ



写真 99 写真 79 に同じ



写真 100 写真 79 に同じ



写真 101 写真 79 に同じ



写真 102 写真 79 に同じ



写真 103 写真 79 に同じ



写真 104 写真 79 に同じ



写真 105 写真 79 に同じ



写真 106 写真 79 に同じ



写真 107 先祖の祭壇へのタナギョウ（表 1 の 33、大滝）（2009 年 8 月 14 日撮影）



写真 108 先祖の祭壇の膳（写真 107 に同じ）



写真 109 ススキを束ねた「仏の橋」(写真 107 に同じ)



写真 110 先祖の祭壇(表 1 の 34、大滝)(2009 年 8 月 14 日撮影)



写真 111 無縁仏の棚(写真 110 に同じ)



写真 112 縁側の外に置かれたススキ(写真 110 に同じ)



写真 113 先祖の祭壇へのタナギョウ(表 1 の 35、大滝)(2009 年 8 月 14 日撮影)



写真 114 新仏の祭壇へのタナギョウ(写真 113 に同じ)



写真 115 縁側の外に置かれたススキ（写真 113 に同じ）



写真 116 無縁仏の棚（写真 113 に同じ）



写真 117 先祖の祭壇（表 1 の 36、大滝）（2009 年 8 月 14 日撮影）



写真 118 新仏の祭壇へのタナギョウとススキを束ねたもの（写真 117 に同じ）



写真 119 先祖の祭壇（表 1 の 37、相ノ浦）（2008 年 8 月 14 日撮影）



写真 120 無縁仏の棚（写真 119 に同じ）



写真 121 無縁仏の棚と縁側の外に置かれたススキを束ねたもの(表1の38、相ノ浦)(2008年8月14日撮影)



写真 122 縁側の外に置かれたススキを束ねたもの(表1の39、相ノ浦)(2009年8月14日撮影)



写真 123 無縁仏の棚(写真 122 に同じ)



写真 124 先祖の祭壇(表1の40、相ノ浦)(2009年8月14日撮影)



写真 125 先祖の祭壇の膳(写真 124 に同じ)



写真 126 縁側の外に置かれたススキを束ねたもの(写真 124 に同じ)



写真 127 無縁仏の棚（写真 124 に同じ）



写真 128 先祖の祭壇（表 1 の 41、相ノ浦）（2009 年 8 月 14 日撮影）



写真 129 縁側の外に置かれたススキを束ねたもの（写真 128 に同じ）



写真 130 無縁仏の棚（写真 128 に同じ）



写真 131 先祖の祭壇（表 1 の 42、相ノ浦）（2009 年 8 月 14 日撮影）



写真 132 先祖（右）・無縁仏（左）の祭壇（表 1 の 43、上湯川）（2009 年 8 月 14 日撮影）



写真 133 無縁仏の祭壇の膳（写真 132 に同じ）



写真 134 先祖（右）・無縁仏（左）の祭壇（表 1 の 44、上湯川）（2009 年 8 月 14 日撮影）



写真 135 先祖の祭壇の膳（写真 134 に同じ）



写真 136 先祖の祭壇（表 1 の 45、下湯川、高野町教育委員会蔵）（2010 年 8 月 14 日撮影）



写真 137 無縁仏の棚（写真 136 に同じ）



写真 138 先祖（右）・新仏（左）の祭壇（表 1 の 47、下湯川、高野町教育委員会蔵）（2010 年 8 月 14 日撮影）



写真 139 無縁仏の棚 (写真 138 に同じ)



写真 140 先祖の祭壇 (表 1 の 48、花坂) (2008 年 8 月 14 日撮影)



写真 141 無縁仏の膳・供え物 (写真 140 に同じ)



写真 142 無縁仏の棚 (写真 140 に同じ)



写真 143 無縁仏の棚 (表 1 の 49、花坂) (2008 年 8 月 14 日撮影)



写真 144 無縁仏の棚 (表 1 の 50、花坂) (2008 年 8 月 14 日撮影)



写真 145 無縁仏の棚（表 1 の 51、花坂）（2008 年 8 月 14 日撮影）



写真 146 無縁仏の棚（写真 145 に同じ）



写真 147 無縁仏の棚（表 1 の 52、花坂）（2008 年 8 月 14 日撮影）



写真 148 先祖（左）と新仏（右）の祭壇（表 1 の 53、花坂）



写真 149 先祖の祭壇（表 1 の 54、花坂）（2008 年 8 月 14 日撮影）



写真 150 先祖の祭壇の花筒（写真 149 に同じ）



写真 151 先祖の祭壇の膳（写真 149 に同じ）



写真 152 先祖の祭壇の箸（写真 149 に同じ）



写真 153 先祖の祭壇の茶（写真 149 に同じ）



写真 154 無縁仏の棚（写真 149 に同じ）



写真 155 無縁仏の棚（写真 149 に同じ）



写真 156 無縁仏の棚（表 1 の 55、東細川）（2010 年 8 月 14 日撮影）



写真 157 先祖の祭壇（表 1 の 56、東細川、高野町教育委員会蔵）（2009 年 8 月 14 日撮影）



写真 158 無縁仏の棚（写真 157 に同じ）



写真 159 先祖の祭壇（表 1 の 57、西細川）（2010 年 8 月 14 日撮影）



写真 160 先祖の祭壇の花筒・経木・供え物（写真 159 に同じ）



写真 161 無縁仏の棚（写真 159 に同じ）



写真 162 先祖の祭壇（表 1 の 58、西細川）（2010 年 8 月 14 日撮影）



写真 163 先祖の祭壇の花筒・経木・供え物・膳（写真 162 に同じ）



写真 164 縁側に置かれた茶（写真 162 に同じ）



写真 165 無縁仏の棚（写真 162 に同じ）



写真 166 先祖の祭壇（表 1 の 59、西郷（神谷）
（2010 年 8 月 14 日撮影）



写真 167 無縁仏の棚（写真 166 に同じ）



写真 168 先祖の祭壇（表 1 の 60、西郷（神谷）
（2010 年 8 月 14 日撮影）



写真 169 無縁仏の棚 (写真 168 に同じ)



写真 170 先祖の祭壇 (表 1 の 61、西郷 (尾細))
(2010 年 8 月 14 日撮影)



写真 171 無縁仏の棚 (写真 170 に同じ)



写真 172 先祖の祭壇 (表 1 の 62、西郷 (尾細))
(2010 年 8 月 14 日撮影)



写真 173 無縁仏の棚 (写真 172 に同じ)



写真 174 先祖の祭壇 (表 1 の 63、西郷 (作水)、高野
町教育委員会所蔵) (2009 年 8 月 14 日撮影)



写真 175 無縁仏の棚 (写真 174 に同じ)



写真 176 無縁仏の棚 (表 1 の 64、西郷 (作水))
(2017 年 8 月 14 日撮影)